

CSRの取り組み

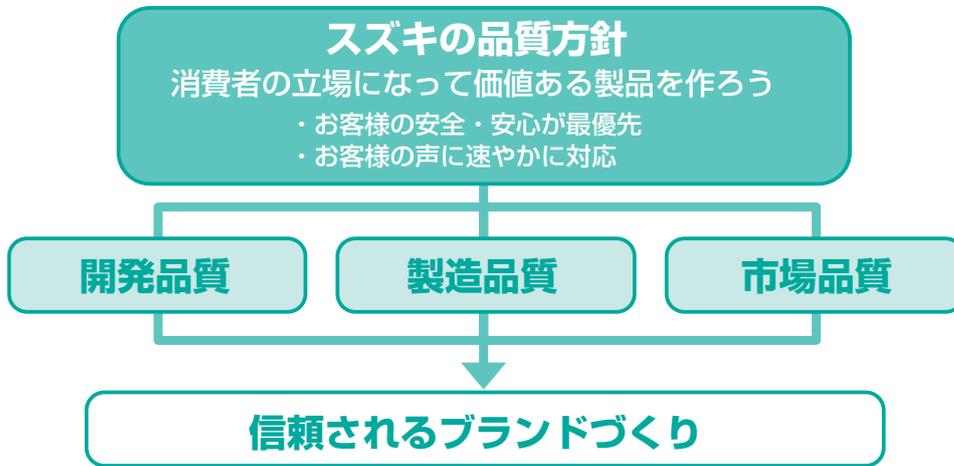
品質への取り組み	75
お客様とともに	76
お取引先様とともに	83
従業員とともに	85
株主・投資家の皆様とともに	95
地域社会とともに	100
国内工場・技術センターの取り組み	110
国内販売代理店の取り組み	116
海外グループ会社の取り組み	117
スズキの財団活動等	127

品質への取り組み

スズキグループでは「ものづくりの強化」の最重点事項として、「品質最優先」に取り組んでいます。お客様の安全・安心を最優先に考え、高品質でお客様に安心して使っていただける製品の開発・生産を行い、アフターサービスでもお客様の声に速やかに対応することで、信頼されるブランドを目指しています。

スズキの品質方針

お客様に安全に、安心してスズキの製品を使っていただくために、製品を開発・設計する段階に始まり、生産工場における製造の段階、そして市場にてお客様に製品を販売し、さらにアフターサービスの提供に至る段階まで、全てのプロセスに携わる部門が横断的に、お客様の立場になって品質を高めるための取り組みを推進しています。



品質マネジメントシステム

スズキグループでは、国際標準規格であるISO9001を品質マネジメントシステムとして導入しています。国内5工場をはじめ、インド、インドネシア、タイ、ハンガリーなどの海外主要工場でもISO9001を取得しています。2019年度は、アメリカのATV生産子会社スズキ・マニュファクチャリング・オブ・アメリカ社でも新たに認証を取得しました。

2019年度のスズキグループ四輪車世界生産台数(2,967千台)に占めるISO9001取得工場での生産実績は約99.6%になります。今後もスズキグループ全体で品質マネジメントを推進し、品質の向上に取り組んでいきます。

主な生産拠点のISO9001シリーズ取得状況

	国名	工場名
1	日本	スズキ(株) 湖西工場
2		大須賀工場
3		相良工場
4		磐田工場
5		浜松工場
6	インド	マルチ・スズキ・インディア社
7		スズキ・モーター・グジャラート社
8		スズキ・モーターサイクル・インディア社
9	パキスタン	パックスズキモーター社

	国名	工場名
10	インドネシア	スズキ・インドモービル・モーター社
11	タイ	スズキ・モーター・タイランド社
12		タイスズキ社
13	ベトナム	ベトナムスズキ社
14	ハンガリー	マジャールスズキ社
15	アメリカ	スズキ・マニュファクチャリング・オブ・アメリカ社
16	コロンビア	スズキ・モーター・コロンビア社
17	中国	済南輕騎鈴木摩托車有限公司
18		常州豪爵鈴木摩托車有限公司



お客様とともに

お客様相談室

スズキお客様相談室では、製品のご購入検討、お取り扱い方法、メンテナンスや廃車まで、様々なステージのお客様からのお問合せに対応しています。

お客様とスズキが直接つながる窓口として、これらの様々なお申し出に対し、お客様の立場に立った迅速で的確、丁寧な対応を心がけ、お客様に安心とご満足いただける相談室を目指して、日々CSの向上に努めています。

対応品質の向上

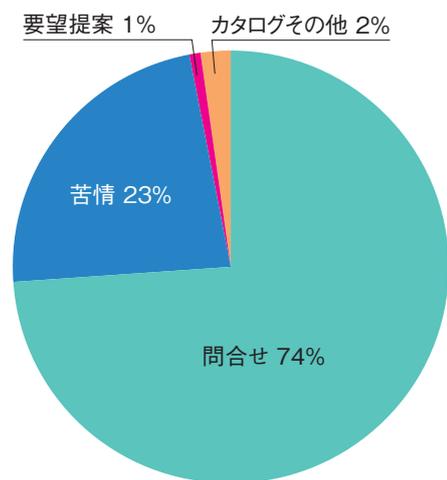
安全意識の高まりから近年急速に普及している先進運転支援システムをはじめ、ハイブリッドやネットワークと連携する車載情報機器など、自動車の構造はますます複雑化しており、安全・安心してご利用いただくためにはお客様の十分なお理解が欠かせません。スズキお客様相談室では、こうした新技術へのお問合せに対して適切な説明が行えるよう担当者への教育を適宜実施しています。また、初めて車を運転されるお客様から長期にわたってスズキ車をご利用いただいているお客様まで、多種多様なお申し出に対し、わかりやすい説明を心がけ、安全・安心してご利用いただける対応に努め、迅速で的確な対応をさせていただくため、お客様サポート支援システムなどのツール整備を図っています。その他、製品のご購入やメンテナンス等、当地での対応が必要なご用件には、全国のスズキ・ネットワークと連携して、適切なサポートを実施しています。

製品・サービス品質の向上

お客様からいただいた貴重な声は、品質やサービスを向上させるための“大切な宝物”と捉え、お申し出を社内各部門に伝えて、商品開発、製造、品質、販売及びアフターサービス等の改善や向上につなげています。これらの貴重な情報は、データを一元管理するシステムによって効率的に管理し、個人情報の保護に配慮した上で社内イントラネットに掲載するほか、情報の重要度に応じて即時に社内展開する体制作りも行っています。また、直接的なご意見、ご要望だけでなく、集められた情報を精査することにより、お客様の潜在的な要望を抽出してまとめ、担当部門に情報提供する場合があります。

スズキお客様相談室は、今後も皆様がより利用しやすく、安心して信頼のできる「お客様相談室」を目指し、常に業務の改善に努力していきます。

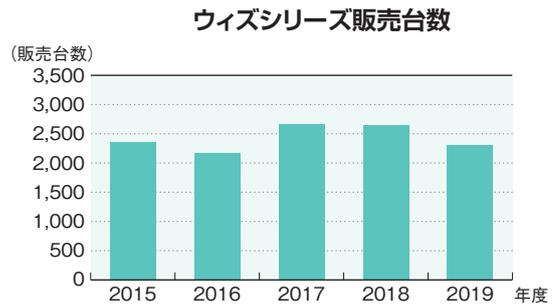
2019年度ご相談件数の内訳



福祉車両(ウィズシリーズ)

スズキは身体に障がいのある方やご高齢の方が容易に四輪車に乗降できるように設計した福祉車両(ウィズシリーズ)を1996年から提供しています。

現在は「車いす移動車」、「昇降シート車」の2タイプ4車種を設定しています。目的や使用環境に合わせてお客様が選択しやすいように福祉車両の充実を図っています。



車いす移動車

要介助者が車両後部から車いすに座った状態で乗降できる車両です。低床設計のため、介助者は容易に要介助者を乗降させることができます。この車両には手動車いすやモーターチェアを載せることができ、スペースシア、エブリイワゴン、エブリイに設定しています。



スペースシア 車いす移動車

昇降シート車

リモコンで助手席のシートを上昇、回転、降下させることができる車両です。要介助者が乗降する際、シートを乗降しやすい位置まで動かせるため、介助者の負担が軽減します。ワゴンRに設定しています。



ワゴンR 昇降シート車

電動車いす

スズキは、身体に障がいのある方やご高齢の方が目的や使用状況に合わせて選択しやすいように電動車いすのラインアップを充実させています。

※電動車いす(セニアカー、モーターチェア)は道路交通法上、歩行者として扱われ、運転免許は不要です。

セニアカー

自操用ハンドル形の電動車いすで、1985年に販売開始しました。主に高齢の方や足腰の不自由な方が気軽に外出できるように作られた電動車いすで、時速1~6kmで速度の調節が可能です。



ET4D



ET4E

タウンカート

市街地や都市部での使用に配慮したコンパクトタイプのセニアカー。速度調節が時速1～6kmの範囲で可能で、1.1mの旋回半径で小回りがききます。



タウンカート

モーターチェア

自採用標準形の電動車いすで、1974年に販売開始しました。この電動車いすは主に身体に障がいのある方用として開発したもので、方向や速度を操作レバー（ジョイスティック）で操作し、2つのモーターで後二輪をそれぞれ直接駆動することによりその場での旋回を可能にしています。屋内外で利用でき、利用者の行動範囲を広げます。



MC 3000S

●安全運転講習会“事故防止に向けて”

スズキは電動車いすを「より安全に」ご利用いただくため、対面販売並びに実車を使った取り扱い指導を実施し、製品の取り扱い方法について理解を深めていただくよう取り組んでいます。更にご購入いただいた後も地域警察や交通安全協会等と協力し「電動車いす安全運転講習会」を実施しています。講習会では講義と実技講習によって受講者の交通安全意識の向上を図り、交通事故等の防止に努めています。

さらに、スズキは新規に電動車いすをご利用される方がより安全に運転をされるよう、安全利用のための冊子を配布し安全運転の啓発を進めています。

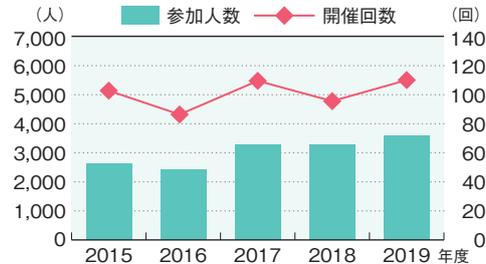


安全利用のための冊子 配布実績

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	5年間計
冊子	10,000冊	8,153冊	8,000冊	16,000冊	12,100冊	54,253冊

冊子の内容は電動車いす安全普及協会のホームページで
ご覧いただけます。 <http://www.den-ankyo.org/>

ユーザー安全運転講習会 開催実績の推移



●電動車いす安全普及協会での活動

電動車いす安全普及協会（電安協）とは、利用者に電動車いすを正しく安全にお使いいただくために、メーカーや販売会社等が発足させた団体のことです。電動車いすの安全かつ健全な利用を推進することによりその普及を図り、道路交通の安全に寄与することを目的としています。スズキは、電安協の会員として、電動車いすを安心して利用する活動を推進しています。

●電動車いす安全指導表彰制度について

電動車いす安全指導表彰制度とは、電動車いすの安全利用方法等について、交通安全教育、広報啓発活動を促進し、電動車いすが関係する交通事故を防止するための活動を積極的に実施している電動車いす関係者を警察庁交通局が表彰する制度です。スズキは電安協の事務局として、電動車いす安全指導表彰制度を積極的に推進しています。

警察庁 電動車いす交通安全指導表彰 実績

2019年度	優秀賞	(株)スズキ自販長野
	優良賞	(株)スズキ自販高知

安全への取り組み

スズキは、歩行者、自転車、二輪車、四輪車等、すべての人がお互いに安全なモビリティ社会で暮らせるよう、「安全技術の取り組み」を強化し、積極的に安全性を向上させています。

スズキ セーフティ サポート

安心して、楽しくスズキのクルマに乗っていただきたいという想いから生まれた予防安全技術「スズキ セーフティ サポート」。

事故を未然に防ぎ、お客様の万一の時の安全を確保するために、運転をサポートする様々な技術で、ヒヤリとする場面も限りなくゼロに近づけていきます。



●スズキ セーフティ サポートの商品展開例

(2020年11月現在)

対象車種	 アルト	 ワゴンR	 スペーススター	 ハスラー	 スイフト	 ソリオ
衝突被害軽減ブレーキ	デュアルセンサーブレーキサポート	デュアルセンサーブレーキサポート	デュアルカメラブレーキサポート	デュアルカメラブレーキサポート	デュアルセンサーブレーキサポート	デュアルカメラブレーキサポート
後退時ブレーキサポート	●	●	●	●	●	●
誤発進抑制機能	前後	前後	前後	前後	前後	前後
車線逸脱抑制機能				●	●	
車線逸脱警告機能	●	●	●	●	●	●
ふらつき警告機能	●	●	●	●	●	●
アダプティブクルーズコントロール			(全車速追従)	●	(全車速追従)	(全車速追従)
標識認識機能			●	●	●	●
ヘッドアップディスプレイ		●	●			●
ハイビームアシスト	●	●	●	●	●	●
先行車発進お知らせ機能	●	●	●	●	●	●
ブラインドスポットモニター					●	
リヤクロストラフィックアラート					●	
全方位モニター用カメラ		●	●	●	●	●

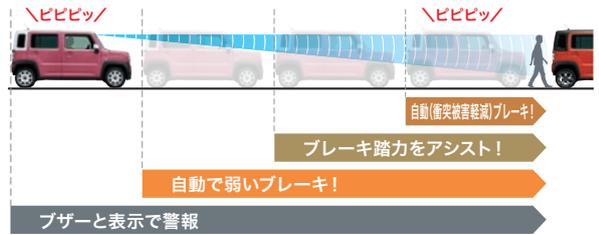
※各機能の作動には一定の条件があります。詳しくは該当のページをご覧ください。

※各機能は車種・グレード・仕様により異なります。詳しくは各車種のカタログページをご覧ください。

●スズキセーフティサポートの主な機能

デュアルカメラ ブレーキサポート : 夜間の歩行者も検知する、衝突被害軽減ブレーキ。

前方の車両や歩行者を検知し、衝突のおそれがあれば音や表示によって警告します。衝突の可能性が高まると自動で弱いブレーキを作動。その間ブレーキペダルを踏むとブレーキ踏力をアシスト。さらに衝突の可能性が高まると、自動で強いブレーキをかけ、衝突の回避または衝突時の被害軽減を図ります。



*自動(衝突被害軽減)ブレーキ機能作動時は強いブレーキがかかりますので、走行前に全ての乗員が適切にシートベルトを着用していることを確認してください。*自動(衝突被害軽減)ブレーキ機能作動後は、クリープ現象により前進しますので、必ずブレーキペダルを踏んでください。

後退時 ブレーキサポート : バック時にも、衝突被害軽減ブレーキが作動。

リアバンパーに内蔵した4つの超音波センサーで後方の障害物との距離を測り、4段階のブザー音で接近をお知らせ。後方の障害物との衝突の可能性が高まると自動でブレーキをかけ、衝突の回避または衝突時の被害軽減を図ります。



*自動(衝突被害軽減)ブレーキ機能による車両停車後は、クリープ現象により後退しますので、必ずブレーキペダルを踏んでください。

誤発進抑制機能 : 踏みまちがいによる急発進を回避。

前方に壁などがある駐車場などで、シフトをD・M・L(Sモード含む)の位置でアクセルペダルを強く踏み込むと、最長約5秒間、エンジン出力を自動的に抑制。急発進・急加速による衝突回避に貢献します。



*ブレーキをかけて車両を停止させる機能はありません。

後方誤発進抑制機能 : シフト入れまちがいによる不意の後退を回避。

後方に障害物があるにも関わらずシフトをR(後退)の位置でアクセルペダルを強く踏み込むと、エンジン出力を自動的に抑制して急な後退を防止。うっかり誤操作による衝突回避に貢献します。



TOPICS

後付け急発進等抑制装置「ふみまちがい時加速抑制システム」を発売

スズキ株式会社は、後付け急発進等抑制装置「ふみまちがい時加速抑制システム」を、2020年8月より発売しました。「ワゴンR」用^{※1}から販売を開始し、今後、対象車種を広げていきます。

今回発売した「ふみまちがい時加速抑制システム」は、現在使用している車両に取り付け^{※2}ができ、発進時、前方または後方の壁などの障害物を検知したときに、ランプとブザーでお知らせし、その状態からアクセルペダルが強く踏み込まれたと検知した場合には、エンジン出力を抑制する装置です。

スズキは、事故のない未来に向けて予防安全技術「スズキ セーフティ サポート」の普及に努めており、今回導入する「ふみまちがい時加速抑制システム」により、お車を永くご愛用頂いているお客様にも安心をお届けします。



超音波センサー(前)
※センサーの色はブラックのみとなります。



超音波センサー(後)



表示機
※機能説明のために点灯させたものです。

- [機能]
- 前後方向の障害物検知時の通知および加速抑制機能
 - 後方障害物のない状況での後退時の加速抑制機能
- [仕様]
- 超音波センサー(前:2個、後:2個)
 - 表示機
- (サイズ:幅77mm×奥行44mm×高さ35mm)

※1 2012年9月～2014年7月に販売したFXグレードが対象。但し、レーダーブレーキサポート装着車、5MT車、20周年記念車、昇降シート車、ステイングレーは対象外。
※2 取り付けができない場合があります。また、取り付けができる店舗が限られています。詳しくはお近くの代理店・販売店へお問い合わせください。

二輪車における取り組み

二輪車業界団体との協力による安全と防犯への取り組み

(一社)日本二輪車普及安全協会に参画し、二輪車安全運転推進委員会と協力して、「二輪車安全運転実技講習会」等への指導員派遣や、「グッドライダーミーティング」等、安全運転講習会の開催に努めています。

また、二輪車の盗難防止を目的に実施する「グッドライダー防犯登録」の普及推進にも協力しています。

(一財)全日本交通安全協会主催の「二輪車安全運転特別指導員育成講習会」や「特別指導員中央研修会」にも専門員を派遣し、指導員の育成・普及推進に協力すると共に、日本二輪車普及安全協会主催の「二輪車安全運転全国大会」には、競技用車両の提供や審判員の派遣を行い、広く二輪車の安全啓発活動に取り組んでいます。

8月19日は「バイクの日」として、(一社)日本自動車工業会等の業界団体と協力し、バイクの楽しさと交通安全をPRするイベントの開催等を行っています。



「スズキ セーフティスクール」の開催

2008年よりスズキの二輪車を購入された一般のお客様を対象に、竜洋コース内二輪車教習所にて、手軽に楽しく安全運転が学べる「スズキ セーフティスクール」を開催しています。

対象は、運転に自信のないビギナー、久しぶりにバイクに乗るリターンライダーから、運転には自信があるが、再度、基本や新交通ルール・マナーを学びたいというベテランまで、幅広く受け入れています。

「走る・曲がる・止まる」といった基本カリキュラムから、「危険予測」・「ハイウェイ体験走行」まで、セットで楽しく学ぶことができる講習会として、2019年は4回開催し145名が受講されました。



「スズキ アンダー30セーフティスクール」の開催

2019年、スズキ二輪車を購入した30歳以下のビギナーユーザーを対象に、全国9会場(北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州、沖縄)で、「スズキ アンダー30セーフティスクール」を初開催しました。

若者向けに簡単な座学と実技の安全運転基礎講座として展開しており、「走る、曲がる、止まる」の基本練習から「ブレーキング」「中速バランス」まで楽しく学ぶ事ができる講習会として、2019年は9回開催し90名が受講されました。



「バイクのふるさと浜松」への協力

国内オートバイ産業発祥の地である浜松から全国へ、その情報や文化、魅力の発信を行う「バイクのふるさと浜松」。2003年より開催され、2019年は17回目の開催となりました。

スズキはこのイベントに協力することで、二輪車に憧れものづくりを担う次世代の人材育成や、ツーリング企画、観光産業を通じた、二輪車愛好家を集う街づくりに貢献しています。



社内安全運転講習会

二輪車を製造・販売しているメーカーとして、新入社員や二輪通勤者、関連会社、代理店社員等を対象に、「二輪車安全運転講習会」を毎年定期的で開催しており、2019年は1回開催し8名が受講されました。

今後も継続的に開催することにより、安全運転意識と基本操作の向上、交通ルールの遵守、マナーの向上を目的に、二輪車メーカーの社員として、他のライダーの模範となるような交通安全教育を実施し、交通マナーの向上を指導してまいります。



「サンデーSRF※ in 竜洋」オフロード講習会の開催

オフロードモータースポーツの社会的普及の根おこし活動として、スズキのコンペティションモデルDR-Z50、RMシリーズをご購入頂いた、ビギナーからベテランまで幅広いユーザーを対象に、毎年竜洋オフロードコースを利用して、テクニカルスクールを開催しています。

国際A級ライダーをインストラクターに招き、マンツーマンで手ほどきを受けられる充実した内容になっています。

2019年は、6回開催し218名が受講されました。

これまでも多くのお客様に参加していただき、オフロードでの基本テクニックを習得していただきました。今後も継続して開催していきます。

※SRF(スズキ・ライディング・フォーラム)は、マシンメンテナンス、ライディングテクニックからメンタルトレーニングまで、オフロードテクニックのレベルアップを目指すことで、スズキのコンペティションモデルを安全に正しく扱っていただき、スズキモータースポーツユーザーの育成と、オフロードモータースポーツの普及を目的に活動するクラブ組織です。





お取引先様とともに

スズキは、「消費者の立場になって価値ある製品を作ろう」を社是の第一に掲げ、社会貢献を目指しています。この「価値ある製品づくり」において、お取引先様と対等な立場で相互に協力し、ともに繁栄できる関係を構築することがスズキの役割と考えています。そのお取引先様は、品質・コスト・納期・技術・危機管理・過去の実績の6つの原則に基づき、公平公正な手続きにより選定されます。また、企業規模及び取引実績の有無、国や地域を問わず、あらゆる企業に対して取引参入機会の門戸を広く開放しています。

継続的な取引

スズキは、パートナーであるお取引先様と信頼関係を構築することで、継続的な取引関係の確立を目指しています。このためには、相互のコミュニケーションが最重要と考え、スズキのお取引先様を対象に毎年1回「購買方針説明会」を開催し、スズキの政策や商品・生産計画を共有するとともに、それらに基づく購買方針を伝え、相互理解に努めています。



購買方針説明会(2019年3月実施)

また、日頃からトップからミドルマネジメントクラスの意見交換はもとより、実務担当者クラスの方々とのコミュニケーションの促進を図っています。

グローバル購買活動

スズキは、世界中の生産拠点と連携し、グローバルな購買活動を加速させていきます。従来、主に各生産拠点ごとで進めてきた活動を、グローバルな最適購買に軸足を移し、世界中から競争力のある価格で部品を購買します。これはスズキにとってのメリットだけではなく、パートナーのお取引先様にとっても「量」を背景とした安定取引や、技術的な蓄積等の様々なメリットが生じ、これらを共有することで、さらなる信頼関係の構築に繋がります。

事業継続計画の取り組み

スズキでは、各事業所の耐震補強工事の他、事業継続計画(BCP:Business Continuity Plan)を作成しています。また、地震、津波など大規模災害への備えは、地域社会やお取引先様、お客様への責任であると認識しています。大きな被害が予想される地域のお取引先様に対しては、耐震をはじめとする防災対策を推奨し、万一被災された場合の速やかな復旧のために、お取引先様とともに取り組んでいます。

法令遵守・人権尊重・環境保全についての取り組み

スズキでは、各国・地域の法令の遵守(日本では「下請代金支払遅延等防止法(下請法)」の遵守、「自動車産業適正取引ガイドライン」の調達五原則に則った取引の実施など)、人権の尊重、環境保全に取り組んでいます。また、同様にお取引先様に対しても、「お取引先様CSRガイドライン」を策定し、法令の遵守、人権の尊重、環境保全への取り組みを実践するよう求めています。

●人権に関する基本的な考え方

「スズキグループ行動指針」にも定めている通り、スズキグループ(スズキ株式会社及び国内・海外グループ会社)では「人権の尊重」の徹底を図っています。調達活動においても、人権侵害につながる行為に加担する意思はありません。スズキグループはお取引先様と連携しながら人権尊重への取り組みを進めていきます。

(人権に関する取り組み事項)

- あらゆる形態のハラスメント行為の禁止
- 安全・健康な労働環境と良好な労使関係
- 雇用における差別の撤廃
- 児童労働、強制労働の禁止
- 人権侵害の原因となる紛争鉱物の不使用

●スズキお取引先様CSRガイドライン

スズキでは事業活動のグローバル展開に伴い、お取引先様を始めとするステークホルダー（利害関係者）の多国籍化、多様化が進んでおり、各国の法令・社会規範に従うことはもとより、文化や歴史に配慮して社会的責任を果たすことへの期待が高まっています。

こうした社会的要請を踏まえて、ビジネスパートナーであるお取引先様と共に果たすべき社会的責任の基本的な考え方、実践すべき事柄を「スズキお取引先様CSRガイドライン」としてまとめました。スズキグループの全ての調達活動にあたり、お取引先様には当ガイドラインの遵守を要請しています。

お取引先様におかれましては、趣旨ご理解の上、当社と一体のCSR活動の推進にご協力をお願い致します。



<http://www.suzuki.co.jp/about/csr/green/guideline/index.html>

(ガイドラインの実効性を維持するための取り組み)

- スズキのお取引先様を対象に年1回、温室効果ガスの排出量や水の消費量に関する調査を実施し、環境保全に関わる取り組みの把握に努めています。
- 下請事業者への一方的な原価低減要請や支払遅延をサプライチェーン全体で防止する為、事案毎の説明会を随時開催し、適正取引の浸透を図っています。
- スズキの品質保証の基本方針、活動、要求事項をまとめた『取引先品質保証マニュアル』に基づいた品質監査を、品質ランクによる頻度に沿って定期的を実施しています。

お取引先様CSRガイドライン(抜粋)

<p>1.安全・品質</p> <ul style="list-style-type: none"> ●お客様のニーズに応える製品・サービスの提供 ●製品・サービスに関する適切な情報の提供 ●製品・サービスの安全確保 ●製品・サービスの品質確保 	<p>3.環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ●環境マネジメント ●温室効果ガスの排出削減 ●大気・水・土壌等の環境汚染防止 ●省資源・廃棄物の削減 ●化学物質の管理
<p>2.人権・労働</p> <ul style="list-style-type: none"> ●差別撤廃 ●人権尊重 ●児童労働の禁止 ●強制労働の禁止 ●人権侵害などの原因となる紛争鉱物の不使用 ●賃金 ●労働時間 ●従業員との対話・協議 ●安全・健康な労働環境 	<p>4.法令の遵守(コンプライアンス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●法令の遵守 ●競争法の遵守 ●腐敗の防止 ●反社会的勢力との関係の遮断 ●機密情報の管理・保護 ●輸出取引管理 ●知的財産の保護
<p>5.情報開示</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ステークホルダー（利害関係者）への情報開示 	

●スズキグリーン調達ガイドライン

グリーン調達の推進については、P.55をご参照ください。

※グリーン調達ガイドライン <http://www.suzuki.co.jp/about/csr/green/guideline/index.html>



従業員とともに

スズキでは、「消費者(お客様)の立場になって価値ある製品を作ろう」の社是のもと、従業員一人ひとりが、自ら考え行動し、お客様の暮らしを豊かにする製品をご提供することを使命に活動しています。

会社は、従業員の雇用の安定を最優先に考え、かつ健全で働きやすい職場づくりのために、労働諸条件の改善に努め、従業員はお互いに協力し合い、「チームスズキ」の精神で、社会貢献できる人材になることを目指し、労使が一致団結して、清新な会社づくりを行っています。

さらに、従業員が「やる気」と「向上心」を持って、大きな未来へ挑戦していく企業風土を醸成するために、以下の項目に重点を置いて制度・環境づくりに取り組んでいます。

従業員が安全・安心かつ健康に働ける職場づくり

高い目標に挑戦する人材を評価・支援する制度づくり

良好で安定した労使関係づくり

安全・衛生及び交通安全に対する取り組み

安全・衛生

スズキでは、安全基本理念を掲げて安全衛生管理活動を推進しています。

安全基本理念

- 「安全はすべてに優先する。」～Make Safety as first priority.(Safety First)～
企業活動の根幹は「人」である。
その「人」を守る安全には、いかなる時にも、一番の優先順位を与えなければならない。
- 「労災はすべて防ぐことができる。」～All accidents are preventable.～
管理者は、「労災は必ず防げる」という強い信念をもって、日々職場をリードしなければならない。
- 「安全はみんなの責任である。」～Safety is everyone's responsibility.～
会社がやるべきことを行なうと共に、一人ひとりが、自分の身を自分で守る、責任ある行動をとらなければならない。
みんなが、ルールを守り、注意し合える職場風土を全員でつくろう。

●安全衛生管理体制

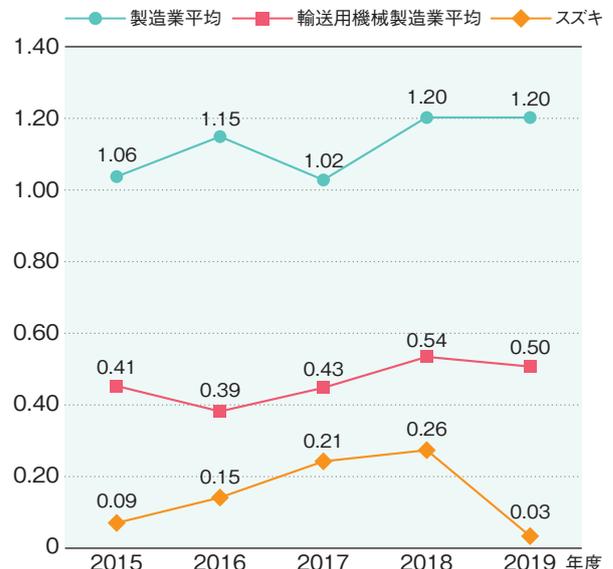
各事業所の代表と労働組合の代表が出席する「中央安全衛生委員会」を年2回開催し、全社の「労働安全」、「労働衛生」、「交通安全」に関する基本方針を決定しています。

また、中央安全衛生委員会による中央安全パトロールを年1回実施し、部門間のクロスチェックによる安全の横串活動により社内の安全意識を高めています。各事業所においては、部門安全衛生委員会を設置しており、中央安全衛生委員会の方針を元に各事業所にて日々、安全衛生活動に取り組んでいます。

●リスクアセスメント活動

スズキでは予防を中心とした安全先取り活動として「リスクアセスメント」を実施しています。作業におけるリスクを洗い出し、その対策を進めることで安全性の向上を図っています。2001年よりヒヤリ・ハット事例のリスクアセスメントを導入し、2013年より定常作業のリスクアセスメントに取り組んでいます。

災害度数率の推移



健康管理

スズキでは社長による健康宣言のもと、“チームスズキ”として健康活動に取り組んでいます。

健康宣言

スズキグループは、従業員一人ひとりが明るく活き活きと、風通し良く助け合える職場づくりを目指し、企業活動の担い手であるすべての従業員が安全で健康に働けることを推進するため、“チームスズキ”として健康活動に取り組めます。

●推進体制

代表取締役社長をトップに、人事部が推進事務局を担います。推進に当たり、従業員の健康を支える健康推進産業医・保健師・看護師など専門職の意見を積極的に取り入れ、労使で連携し推進いたします。

●重点取り組み事項

1.健康で働きやすい職場環境づくり ～早期発見・早期ケア～

当社では従前、定期健康診断および再検査の100%受診を標榜し、早期発見、早期ケアに努めてきました。

特に若年層のうちから生活習慣病を未然に防止し、職場環境の維持・向上に努めます。

2.メンタルヘルス向上

当社では、より働きやすい職場環境を目指し、ストレスチェックの実施に加え、実施後のケアについても積極的に取り組みます。

3.健全な身体(心と体)づくりの実施

当社では、健全な身体づくり促進のための運動習慣の創出機会を目指し、従業員が積極的に取り組める健康促進に努めます。

4.身近な健康リテラシーの向上

当社では、従業員の日頃からの健康維持を促進するため、従業員およびその家族の健康リテラシーの向上に努めてまいります。

交通安全

一人ひとりが四輪車・二輪車メーカーの従業員として自覚を持ち、社会の規範となる運転を心掛けるよう、業務上や通勤途上の交通事故のみならず、私用での運転についても交通事故防止を図るため、以下の取り組みを積極的に実施しています。

- 通勤経路ヒヤリマップの作成
- 小グループでの交通ヒヤリ・ハット、危険予知訓練活動
- 公道のみならず構内交通ルールの指導、徹底
- 所轄警察署による交通安全教育
- 運転適性検査による個別指導
- 長期連休前の交通安全呼びかけ
- 同乗や、ドライブレコーダーを使用した運転指導
- 新入社員を対象とした安全運転講習の実施
- 二輪車安全運転講習会 (P.82)



新入社員を対象とした安全運転講習の実施
(協力:掛川自動車学校)

キャリアアップのための取り組み

困難な目標への挑戦こそ、自らを成長させる道であり、それこそがスズキのDNAと考えます。めまぐるしく変化する市場環境に対応するため、社員ひとり一人が高い目標を設定し、より高度な専門能力の修得に向け、挑戦していかなければなりません。スズキでは、このような個人のチャレンジ精神をバックアップする充実した人材育成を実施しています。

目標チャレンジ制度

業務の遂行にあたり、上司からの業務指示を受けるだけでなく、自らの業務について自主的に目標を設定し、チャレンジすることこそが自己を向上させる道だと考えます。スズキでは、高い目標を掲げ、それにチャレンジする仕組みとして目標チャレンジ制度を導入しています。半期ごとに本人と上司が話し合っただけでなく、今後半年間の目標を立てることで、努力目標が具体的に本人の仕事への意欲向上に繋がることに加え、上司が本人の目標達成度を適切に評価し、本人の能力開発のための指導育成ポイントを的確に把握できるという効果が現われています。

また、スズキの人事制度は、年功序列から脱却した職務重視の人事制度で、スズキの更なる成長を担うプロの人材育成を図るとともに、人事処遇のしなやかさを仕事、役割、責任と成果に応じた客観性・納得性の高いものとしています。職務重視の人事制度と目標チャレンジ制度が、従業員のキャリアアップをバックアップしています。

自己申告制度

年1回、自らの仕事と能力を振り返ることで、自己の強み・弱みを再確認し、能力開発につなげるとともに、将来チャレンジしたい仕事や部門をキャリアプランとして描き、その内容を上司と人事部門に申告する制度です。申告内容は、人材育成と人材の適正配置の基礎資料として、活用しています。

ローテーション制度

従業員の知識、技術力の向上並びに組織の活性化を目的として、技術職、事務職、営業職の若手従業員は、入社10年間で全員他部門への異動を経験することを目標に掲げ、全社で異動計画を作成し、計画的な人材ローテーションを実施しています。

海外研修プログラム

2015年度より、グローバル人材の育成を目的に、若手従業員を対象に、海外の関係会社への「6ヶ月間の海外研修出張派遣」を実施しています。

(2015～2019年度累計31名…2015年度=6名、2016年度=6名、2017年度=5名、2018年度=10名、2019年度=4名)



語学力向上プログラム

従業員の語学力の向上を目的に、入社から7年目までの若手従業員については、各自がTOEICの目標点数を設定し、受験料は会社負担で、毎年TOEICを受験できる仕組みを導入しています。

また、就業前と終業後に、社内に外部講師を招き、英語・スペイン語・中国語・タイ語・インドネシア語などの語学セミナーを開講するとともに、社外の教育機関が主催する通信教育講座を斡旋し、語学力の向上を支援しています。なお、修了者には費用の一部を会社が助成しています。2019年度は830名が受講しました。

安心して働ける快適な職場環境づくり

スズキは、企業活動の担い手である従業員が心身共に充実した状態で意欲と能力を発揮し、生き活きと働けるような職場環境づくりが大切であると考えています。このため、従業員の多様な働き方に対応できるよう、さまざまな支援制度を導入しています。また、快適な職場環境づくりによって、より生産性を高める働き方への意識改革を進めていきます。

労働時間短縮の取り組み

従業員が長時間の労働によって健康を害する事が無いよう、様々な施策を適宜導入して、労働時間の短縮に取り組んでいます。

- 総労働時間をベースとした残業時間管理の厳格化
- 早朝・深夜の勤務を禁止するフレキシブルタイム制の導入
- 継続した休息時間を確保する勤務時間インターバル制の導入
- 仕事と生活の調和(ワークライフバランス)を目的とした定時退社日の設定

両立支援制度

● 短時間勤務制度(育児短時間勤務・介護短時間勤務)

小学校3年生までの子供を養育する従業員もしくは家族の介護を必要とする従業員に対し、本人の申し出により1日の所定労働時間を短縮した勤務が可能となる制度を導入しており、2019年度は261名が利用しました。この制度を利用する従業員は、原則として所定時間外勤務が免除されます。

従業員が多様な働き方を選択できる制度をつくることで、意欲と能力を持った従業員が継続して働ける環境を整えています。職場全体で両立支援への意識を高めるとともに、短時間勤務者を支えることができる「働きやすい職場」づくりを推進していきます。

● 休職制度(育児休職・介護休職)

働く意欲・能力がありながら、育児・介護に専念するための休職制度は、男女を問わず多くの従業員が利用しています。2019年度は118名がこの制度を利用しました。

産前産後休暇を取得したのち、生まれた子供が1歳になる日(誕生日)の前日まで取得できる育児休職は、その子供が保育園に入所できない等の理由がある場合には、その期間を最長で1年延長可能です。

家族の介護等で休業を行う場合は、対象家族一人につき通算365日まで介護休職が取得できます。また、有給休暇とは別に、親や子供の介護をする場合に利用できる傷病・介護休暇制度を、2015年4月より導入しています。

		2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	
育児	育児短時間利用者数	男	2	3	3	3	5
		女	160	176	201	229	251
		計	162	179	204	232	256
	育児休職利用者数	男	2	8	7	13	23
		女	72	60	84	91	94
		計	74	68	91	104	117
育児休職復職率	男	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100%	
	女	100.0%	90.0%	97.1%	95.9%	97.8%	
	計	100.0%	91.2%	97.3%	96.3%	98.1%	
介護	介護短時間利用者数	男	1	1	1	1	1
		女	0	1	3	4	4
		計	1	2	4	5	5
	介護休職利用者数	男	2	4	1	4	0
		女	0	2	1	2	1
		計	2	6	2	6	1
	介護休職復職率	男	100.0%	25.0%	100.0%	25.0%	—
		女	—	100.0%	100.0%	100.0%	100%
		計	100.0%	50.0%	100.0%	50.0%	100%

● 育児休職者復帰支援セミナー

育児休職者とその配偶者を対象として「復職に向けてのパパママ情報交換会」を開催しています。情報交換会の中では、復職にあたっての手続きの説明や産婦人科医の講話を通じて、育児や職場復帰に関する情報提供を行っています。また、先輩従業員や育児中の従業員同士の交流の機会を設け、復職後に育児と仕事を両立していくことへの不安の払拭を図っています。

● その他の両立支援制度

2015年4月に支給を開始した「子育て支援手当」は、2018年4月に対象となる子供を「6歳まで」から「15歳まで」に拡大しました。また、日々の育児においては突発的に対応せざるを得ない事もあることから、1年間に40回まで半日有給休暇を使用できるようにしています。

近年では、事業所周辺の企業主導型保育園と共同利用契約を結び、子育て世代の従業員の就労と子育ての両立支援を進めております。

● 両立支援ハンドブック

上記「育児短時間勤務制度」「育児・介護休職制度」をはじめ、仕事と家庭の両立を支援する様々な制度について分かり易く説明した冊子を作成し、制度の周知と利用促進に取り組んでいます。



相談窓口等

職場内でのハラスメントを含む人事上の問題や安全衛生・メンタルヘルスに関する相談に特化した相談窓口として、「人事部・総務部 相談窓口」を開設しています。さらに、これらの相談窓口に加え、食堂や事務棟等に「改善提案箱」を設置し、より一層、相談・提案が行いやすい風通しの良い職場づくりを目指しています。

また、精神科医・臨床心理士による『心の相談室』も開設しています。

ダイバーシティ(人材の多様性)

スズキでは、スズキグループで働くすべてのひとに適用される「スズキグループ行動指針」において、性別、年齢、国籍、人種、宗教などを理由とした差別や嫌がらせのない職場づくりを掲げています。そして、女性や高齢者、外国人などさまざまな人材が、さまざまな部門で活躍しています。

今後も多様な人材が活躍できるよう、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいきます。

		2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
従業員	男	13,467	13,603	13,711	13,808	13,932
	女	1,465	1,535	1,558	1,623	1,714
	計	14,932	15,138	15,269	15,431	15,646
管理職 (内数)	男	957	1,004	1,037	1,066	1,121
	女	8	10	12	14	19
	計	965	1,014	1,049	1,080	1,140
障がい者雇用率		2.08%	2.04%	2.02%	2.14%	2.20%
新規採用	男	532	674	541	445	569
	女	103	120	101	118	139
	計	635	794	642	563	708
うち 大卒以上	男	412	523	396	396	413
	女	60	62	60	79	81
	計	472	585	456	475	494
離職率		4.1%	3.8%	4.2%	3.9%	3.1%

女性活躍推進の取り組み

これまで以上に、女性が能力を発揮しやすく、活躍できる会社となるため、2020年度からは、「女性役職者数の増加」と、より働きやすい職場環境の整備として「年次有給休暇の取得促進」を課題とし、「2025年の女性役職者数を女性活躍推進法施行前(2015年度)の3倍にする」および「2025年の管理職も含めた年次有給休暇の取得率を2018年度より10%向上させる」ことを目標に掲げて活動していきます。

具体的には、「若手や役職者向けに両立支援の理解促進教育の実施」や「育児休職者向け懇親会の実施」、「両立支援に関する情報サイトの開設」、「有給休暇取得状況の見える化」などを計画的に行っていく予定です。

女性活躍推進法に基づく行動計画

1. 計画期間

2020年4月1日～2025年3月31日(5年間)

2. 課題

- ・管理職に占める女性の割合が低い
- ・管理職を含めた年次有給休暇の取得率が低い

3. 目標

- ① 2025年の女性役職者数を、女性活躍推進法施行前(2015年度)の3倍にする
- ② 2025年の管理職を含めた年次有給休暇の取得率を2018年度より10%向上させる

4. 取組内容

取組1:柔軟な働き方を促進するための既存施策を改めて周知し、活用の促進を図る

◆両立支援に関する教育(入社年次研修、階層別研修)

- 2020年上期～ 役職者に向けた理解促進教育の実施
若手社員に向けた両立支援施策の説明・利用促進の実施
- 2021年上期～ 新入社員に向けた両立支援施策の説明・利用促進の実施

◆両立支援に関する情報発信

- 2020年上期～ 育児休職者の職場復帰に向けた懇親会を開催する(年2回)
両立支援制度の説明、先輩社員との座談会、育児休職者同士の情報交換、
産後ケアに関する産業医からの情報提供、個別面談など
- 2021年上期～ 両立支援に関する情報サイトの開設(社内ホームページ)

取組2:有給休暇取得促進の啓蒙活動の強化、取得促進策の検討を行う

◆有給休暇取得状況の周知及び取得促進

- 2020年下期～ 部門別の有給休暇取得状況を社内ホームページにて公表し、有給休暇の取得を促す
- 2021年上期～ 勤務記録システムの改修を行い、従業員それぞれが自身の有給休暇の取得状況を把握しやすくする

上記取組以外にも、

- ・女性社員の活躍をバックアップするための人材育成の強化
- ・女性社員が更に活躍できる基盤としての制度の拡充

など、これからも女性が能力を発揮し、活躍できる会社となるために、様々な取組を進めていきます。

再雇用制度

2006年4月の高齢者雇用安定法の改正以前の1991年7月より、スズキは60歳定年後の再雇用制度を導入しています。60歳定年以降も意欲と能力のある従業員への活躍の場を提供しており、各職場でその豊富な経験や専門能力を活かした業務を担当しています。

障がい者雇用

人事部内に障がい者雇用の専任担当者、精神保健福祉士を配置し、定期的に個別面談を実施しているほか、職場にも障害者職業生活相談員を置き、障がいを持つ従業員の悩みや問題のケアを行うなど、長く安心して働くことができる環境づくりに取り組んでいます。

● 特例子会社「スズキ・サポート」の事業展開

2005年2月に設立した特例子会社「スズキ・サポート」は、事業をスタートして15年目を迎えました。2020年5月末現在で、重度の知的障がい者を含めた障がい者数は55名となり、指導者と一体となってスズキ本社内事務所、従業員寮、関連施設の清掃業務、社内の文房具管理業務及び農園作業に携わっています。

全員が毎日明るく元気に働く姿は、スズキの従業員からも共感と喜びを持って迎えられています。

スズキでは、スズキ・サポート設立の理念である社会貢献の一環として、障がい者の方々が働くことのできる喜びや社会参加によって人間的成長を感じる事ができるよう、今後も積極的に障がい者雇用に取り組んでいきます。

【株式会社 スズキ・サポートの概要】

- 1.社 名 株式会社スズキ・サポート
- 2.資 本 金 1千万円
- 3.出 資 者 スズキ株式会社
- 4.所 在 地 静岡県浜松市南区高塚町300
- 5.設 立 2005年2月
- 6.事業内容 清掃業務、農産物の生産業務
- 7.代 表 者 代表取締役 岡部 孝利
- 8.従業員数 88名(うち障がい者55名)



社内教育システム

スズキの教育制度は、集合教育・職場教育・自主的能力向上の三つの柱で構成されています。教育担当部門である「スズキ塾」では、社示に示された理念に基づき、階層別教育をはじめとする全社横断的な教育を行うとともに、技術・生産部門などと連携し、業務遂行上必要となる基礎的な知識・技術を習得する職能別（専門）教育を実施しています。

また、各部門においては、より専門的な知識やスキルを学ぶための人財教育を行うと共に、Eラーニングや通信教育、語学セミナー等を通じて社員の能力向上に積極的に取り組んでいます。

階層別教育においては、「若手社員の能力向上」「各階層でのリーダー育成」および「経営層の計画的育成」のための教育を重点的に実施しています。

研修受講人数(スズキグループ)

2017年	59,500人
2018年	60,500人
2019年	62,200人

①若手社員の能力向上研修実施

- 入社2年目～7年目までの若手社員に対して、毎年入社年次別研修を実施

②経営層を計画的に育成するための選抜研修

- 新任役職者研修およびフォロー研修の実施



階層	集合教育 (Off-JT)		職場内教育 (OJT)	自主的能力向上	
	階層別教育	職能別教育		自己啓発	小集団活動
管理職 (部長・マネージャー)	新任部長格研修 経営幹部育成研修 新任部ライン長研修 新任グループライン長研修 管理職3年目研修 新任管理職研修	管理職 マネジメント力 向上研修			
係長 組長	係長リーダー研修 グローバルリーダー研修 ライン係長フォロー研修 新任ライン係長研修 係長3年目研修 組長3年目研修 新任係長研修 新任組長研修	係長 マネジメント 基礎研修	社外研修 専門研修	OJT	通信教育 語学セミナー
班長 一般社員	チームリーダーフォロー研修 新任チームリーダー研修 班長3年目研修 新任班長研修 入社7年目研修 入社6年目研修 入社5年目研修 入社4年目研修 入社3年目研修 入社2年目研修				提案活動 QCサークル活動
新入社員	実習(生産・製品) 新入社員基礎研修				

労使関係

スズキは、スズキ従業員を代表するスズキ労働組合と、「相互信頼」に基づく、良好な労使関係を築いています。労働組合の目的は、従業員の雇用の安定と働く環境(労働条件)の維持改善にあります。この目的を達成するには、会社の安定的な発展が不可欠です。スズキとスズキ労働組合は、企業活動の成果配分としての給与・賞与・労働時間等に関する交渉では、会社と労働組合という立場で議論しながら、会社を安定的に発展させようとする基本的なベクトルを共有しています。

2019年度末時点の組合員数は16,499名で、管理職や労働協約で定めた非組合員を除いた正規従業員の組織率は100%です。

従業員とのコミュニケーション

スズキは、労使間においても、研究開発・設計・製造・販売等、スズキにおける全ての業務に従業員の声が反映されるように、話し合いの場(労使協議会)を数多く設けています。

労使協議会では、労働組合の要求事項(給与・賞与・労働時間等)について話し合うのは勿論のこと、毎月定期的に、経営方針、生産計画・勤務時間、福利厚生、安全衛生等、様々な内容を議論し、お客様に喜んでいただける商品をお届けするために会社は何をなすべきか、従業員(労働組合)は何をなすべきかについて、真剣に意見交換を行っています。

	開催頻度
中央労使協議会	月1回
支部労使協議会	月1回

スズキグループの安定した労使関係構築のために

スズキには、国内外130社のグループ企業(製造会社・非製造会社・販売会社)があります。スズキは、130の企業がそれぞれの国・それぞれの地域で、そこに住む人々・社会・お客様から、信頼される企業であり続けたいと考えています。

スズキは、海外企業の労働組合役員と人事労務担当者をスズキに受け入れ、労使間の信頼関係とコミュニケーションの重要性、公平・公正な人事制度の必要性等について研修をしています。また、スズキは、スズキ労働組合とともに、国内外のグループ企業とのグローバルな人材交流を進めることにより、130社約6万7千人の従業員が創造性豊かに生き生きとして働く闊達な職場風土と、安定した労使関係を構築できるよう取り組んでいます。

● マルチ・スズキ・インディア社の取り組み

マルチ・スズキ・インディア社では、円滑な工場運営を促進し、競争力のある事業目標を達成するために、良好な労使関係を維持することが、工場での人的資源戦略の重要な側面であると考えています。

このことを認識した上で、3工場(グルガオン工場、マネサール工場、マネサール・エンジン工場)すべての労働組合と良好な関係を築き事業課題を認識させ、従業員の福利厚生に関する方針決定に協同させることも労使関係の重要な側面です。人とつながりを持つ基本理念に基づいて、従業員制度を構築しました。この制度では、すべての利害関係者と積極的なコミュニケーションを図り、業務における従業員の能力向上に注力しています。

労働組合、社長、工場長、人事担当者、現場従業員で定期的にミーティングを実施し、労使間のコミュニケーションを継続的に強化しています。

ミーティング	開催頻度
社長と部長級以上とのミーティング	年4回
社長と労働組合とのミーティング	月1回
執行役員、工場長、人事部長と労働組合とのミーティング	月1回
生産・人事担当役員と組長・班長・現場従業員とのミーティング	月1回
工場人事責任者・工場長と労働組合とのミーティング	月1回



労使ミーティングの様子

また、人とのつながりと従業員制度を強固にし、従業員とその家族とのつながりを深めるために、福利厚生を充実させて、労働組合と協同で文化・学術・スポーツに関する従業員参加型イベントを実施しました。その結果、従業員のモチベーションが向上し、会社と従業員との結束力が高まりました。従業員の家族を対象とした工場見学会、スポーツ大会、ファミリーデー、高等教育スキームによる現場従業員の能力向上、従業員の子もたちへの進路相談など、従業員全員が参加する様々な取り組みを実施しています。



従業員家族による職場見学会



社内スポーツ大会



ファミリーデー

同社は、従業員が労働組合を組織し加入する権利を尊重し、3工場の労働組合を公認しています。いずれも従業員で構成された社内の独立した労働組合で、法令に従って代表選挙が実施されています。現場従業員に影響を与えるすべての重要な方針変更は労働組合代表と協議され、方針変更は労働組合代表を通して、法令で定める21日以上 の事前通告期間をもって現場従業員に直接伝えられています。

株主・投資家の皆様とともに

TCFD提言への賛同を表明 ～TCFDコンソーシアムにも加入～

当社は、2020年4月に「TCFD^{※1}」による提言への賛同を表明し、更に同5月には「TCFDコンソーシアム^{※2}」に加入しました。

当社はCO₂を排出する輸送機器を製造する企業の責務として、パリ協定に基づき地球温暖化の抑制に貢献していきたいと考えています。また、Climate Action 100+にも選定されていることもあり、多くの機関投資家と気候変動問題について、様々な議論を重ねており、投資家からの当社に対する期待とリスクについても、充分認識しています。

TCFDによる提言は、企業が気候関連リスクと機会について情報開示を行う際にガイダンスを提供する等の支援を行い、資本の効率的な配分による持続可能性の高い低炭素社会へのスムーズな移行を促し、金融市場の安定化を図ることを目的とした、国際的なイニシアティブです。当社の持続的成長と企業価値向上に向けても、気候変動に関連する自社のリスクと機会を分析し、対応することは有用であり、この度、TCFD提言に賛同しました。

提言への賛同表明、並びにTCFDコンソーシアムへの加入により、提言に基づく自主的かつ積極的な情報開示を進めると共に、持続可能な社会の実現とともに新たな価値を提供し続けていきます。

※1 気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD):Task Force on Climate-related Financial Disclosures の略。2015年に金融市場の安定化を図る国際的組織の金融安定理事会(FSB)が設立。

※2 TCFDコンソーシアム: 国内のTCFD提言へ賛同する企業や金融機関等が、企業の効果的な情報開示や、開示された情報を金融機関等の適切な投資判断に繋げるための取り組みについて議論する場として2019年に設立。



企業価値の向上に向けて

自動車産業は大変革の時代を迎えています。このような変革期には、現在からの延長線ではなく、長期展望として10年、15年先に目指す姿を描き、そこから現在に遡って今後行うべきことを考え、未来を切り拓くことが必要です。

特にインド市場は13億人の人口を抱え、今後、大規模市場に成長する可能性があります。我々は、2030年においても、現在のシェア50%を維持したいと考えており、今後の成長に向けてチャレンジしていきます。

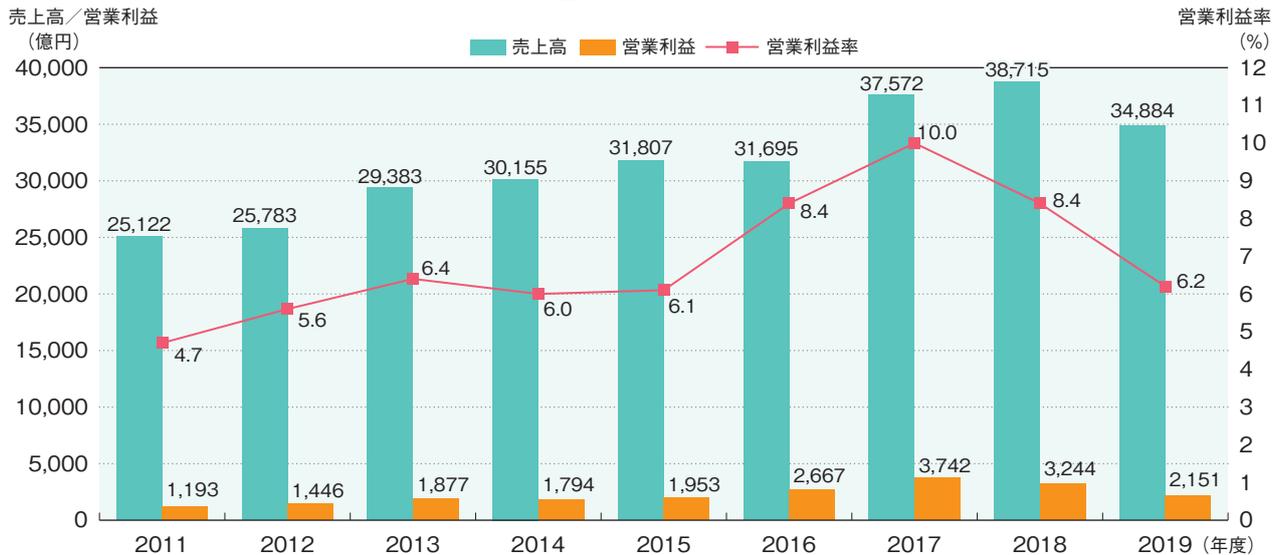
また、インドを充実させることは、開発した商品を世界に展開することを通じて、他の市場の充実にもつながると考えています。

しかし、今と比べれば、全く未知の領域です。経営陣をはじめ全社員が発想を変えて、経営資源を効果的に配分していかなければなりません。

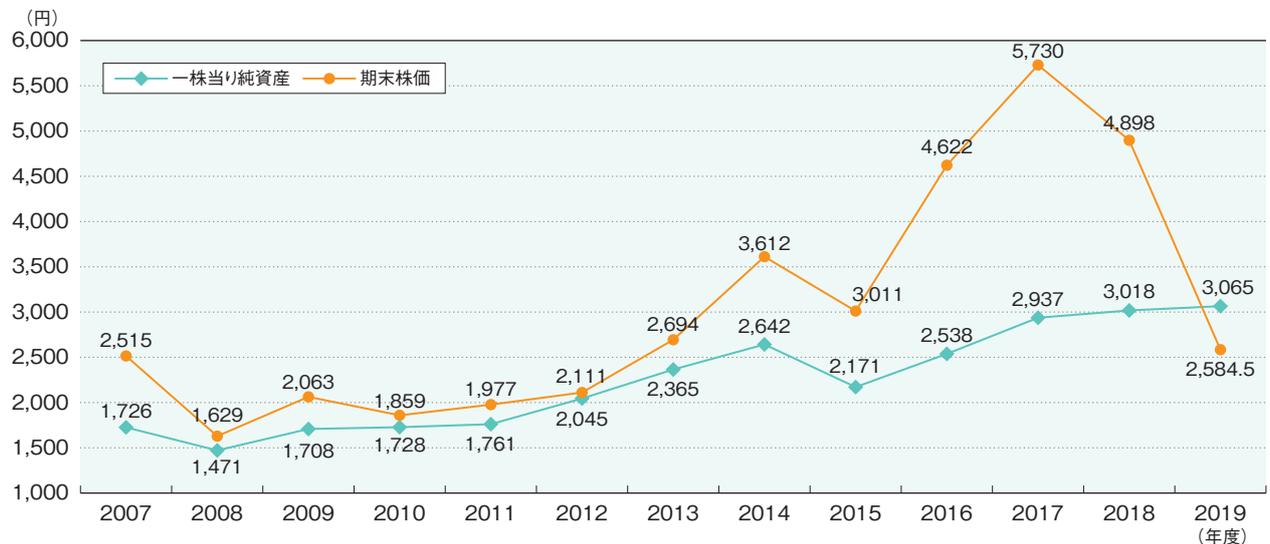
その意味でこの長期展望に向けた活動は、猶予の許されない、当社グループの未来をかけた挑戦です。

足元では新型コロナウイルスの対策に迅速に取り組むとともに、長期的な展望に基づいて価値ある製品づくりとサービスの提供、企業価値の向上に努めていきます。

連結業績の推移



一株当たり純資産と期末株価の推移



株主還元

創立100周年の記念配当を実施

当社は2020年3月に創立100周年を迎えることができました。この100年、スズキは織機、二輪車、四輪車、船外機と多くの挑戦をしてきました。これらの挑戦があったからこそ、今のスズキがあります。株主の皆様、お客様、お取引先様、従業員、当社のあらゆるステークホルダーの皆様へ感謝、まさに「感謝。感謝。感謝の100年」でした。

2020年3月期の配当金につきましては、減収減益ではありますが、当社創立100周年という節目を迎えることができたことを株主の皆様へ感謝し、期末配当金は1株につき普通配当37円に創立100周年の記念配当11円を加え48円としました。

配当方針

当社は2015年6月に公表した中期経営計画「SUZUKI NEXT 100」のなかで配当性向について15%を目標値として掲げ、株主還元を重要な経営課題のひとつとして取り組んで参りました。

今後の配当政策につきましては新中期経営計画のなかで新たな配当方針について発表させていただく予定です。

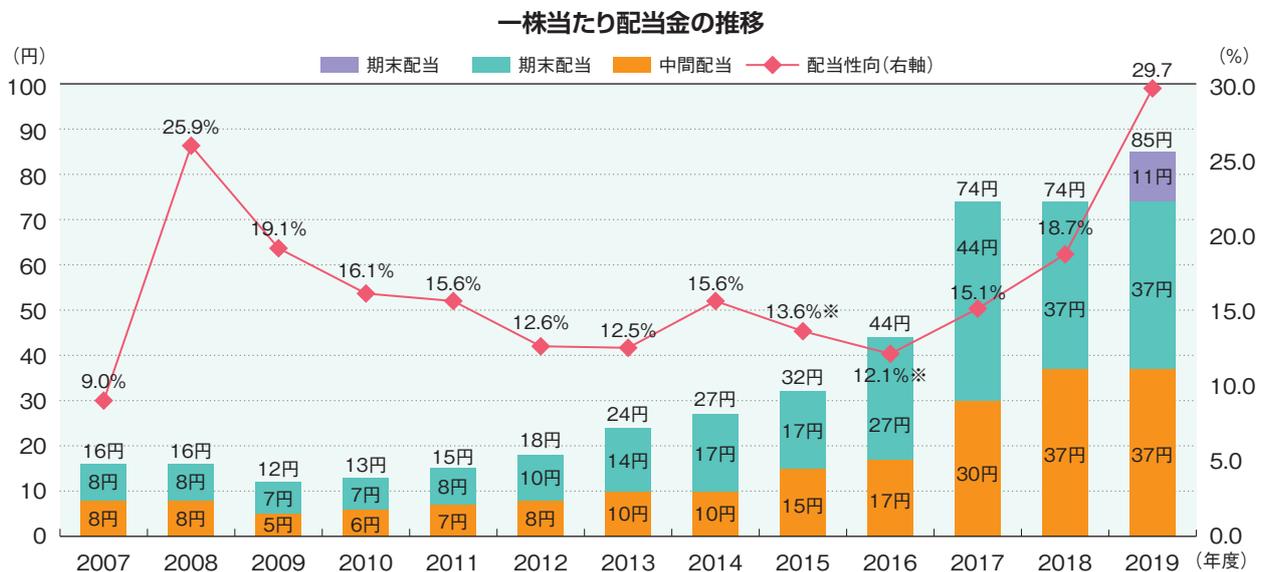
なお、スズキの剰余金の配当は、中間配当と期末配当の年2回を基本的な方針としています。スズキは、取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨定款で定めており、配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会です。

自己株式の取得について

自己株式の取得につきまして、2015年9月VWとの提携解消に伴い約120百万株、総額約4,600億円の自己株取得を実施し、その結果、2015年度の総還元性向は400%を超える株主還元となりました。

また、保有する自己株式につきましては、市場へ放出せず希薄化の抑制に努めています。2016年3月には保有上限を50百万株程度とすることとし、約70百万株の自己株式を消却しました。転換社債の発行を実施した際にも、希薄化を最大限抑止するスキームを採用したことで、株価上昇により転換が進みましたが、通常のスキームに比べ希薄化を約半分を抑えることができました。

2020年3月末保有する自己株式は約6百万株となりますが、今後の機動的な資本政策に備えて保有していく方針です。



*2015年度、2016年度の配当性向については、投資有価証券売却益を除く当期純利益では15%以上を確保しています。

IR^{*}に関する取り組み

スズキグループは、従来より、公正かつ効率的な企業活動を旨として、株主各位をはじめ、お客様、お取引先様、地域社会、従業員等の各ステークホルダーから信頼され、かつ国際社会の中でさらなる貢献をし、持続的に発展していく企業でありたいと考えています。ステークホルダーや社会から一層のご信頼を頂けるよう、法令や規則が定める情報の迅速、正確かつ公平な開示を行うほか、当社をよりご理解頂くために有益と判断する情報の積極的な開示にも努め、企業の透明性をさらに高めていきます。

IRに関する部署の設置

IRに関する部署については、経営企画室に、本社でのIR窓口として経営管理・IR・原価管理部、及び東京でのIR窓口として東京IR課を設置しています。また、決算短信等の開示資料作成部門として財務本部に財務部経理課を設置しています。

アナリスト、機関投資家向けに定期的説明会を開催

四半期毎に、決算アナリスト説明会を開催しています。なお、株主・投資家の皆様はその内容をお聴きいただけるよう、音声ファイル及び説明会における主な質疑応答内容をホームページに掲載しています。

その他にも、インベスターズ・カンファレンス等の説明会の実施、国内外でのIRミーティングの開催、新車発表会へのアナリストの招聘、アナリスト向け工場見学会、技術説明会等も随時、実施しています。

なお、新型コロナウイルス感染拡大により従来の対面でのミーティングが困難となるなか、オンラインでのツールを活用し、引き続き投資家との対話を図っています。

個人向けのIRイベントの実施

証券会社と共同で、担当役員もしくはIR担当者による個人投資家向け説明会を定期的で開催しています。その他、証券会社の営業社員向け説明会についても随時、実施しています。

また、2008年6月に開催した第142回定時株主総会より、総会終了後に、ご出席いただいた株主様を対象に、よりスズキのことをご理解していただくため、『スズキ歴史館』の見学会を開催しています。

なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、2020年6月の見学会は中止としましたが、『スズキ歴史館』は「スズキのものづくり」をテーマに、スズキの歴史や現在の世界への事業展開の紹介、また、自動車ができるまでの工程をわかりやすく展示する施設で、2009年4月から一般公開しています。



スズキ歴史館外観



スズキ歴史館見学会

^{*}IR（インベスター・リレーションズ）とは、企業が株主・投資家の皆様に対し、投資判断に必要な企業情報を、適時、公平、継続して提供する活動のことをいいます。

海外投資家向けIR

海外投資家向けに以下のIR活動を実施しています。

- 海外投資家向けIR情報のホームページへの掲載

国内投資家向けに開示している決算短信、投資家向け説明会用プレゼンテーション資料、株主総会招集通知、株主総会決議通知、東証適時開示文、IRニュースなど、日本語IRページと同等の情報を英語にて掲載 (<http://www.globalsuzuki.com/ir/index.html>) しています。

- 国内で開催される海外投資家向けIRカンファレンス等への参加

- 「東証英文資料配信サービス」での決算短信及び適時開示の英文提供

IR資料のホームページ掲載

スズキホームページでは、投資家向け決算説明会資料をはじめ、投資判断に必要な企業情報・資料をIR情報として掲載 (<http://www.suzuki.co.jp/ir/index.html>) しています。

同サイトにて、当社のディスクロージャーの基本的な考え方、適時開示に係る社内体制、株主との建設的な対話等について「ディスクロージャーポリシー」を開示しています。 (<http://www.suzuki.co.jp/ir/home/pdf/disclosurepolicy.pdf>)

また、2017年度より「ESG情報」の記載を充実させ、関連情報の検索性を高めるインデックスを追加しています。



地域社会とともに

TOPICS

地域密着カーシェア“Patto”を大阪府豊中エリアでサービス開始

株式会社スマートバリュー、スズキ株式会社、丸紅株式会社の3社は、2020年2月22日(土)より一年間、スズキアリーナ豊中や提携駐車場など大阪府豊中市周辺エリアにおいて、カーシェア「Patto(パット)」のサービスを提供開始しました。

【Patto 3つの特徴】

1.パットと乗れる!地域密着カーシェア

「Patto」は、郊外住宅地にステーションを設置し、クルマに“パットと乗れる”環境を提供します。地域の方々が気軽に使えるモビリティサービスを目指しています。クルマのステーションを郊外住宅地にドミナントで設置し、「使いたい」ときにすぐ利用できる環境を提供する、生活者に寄り添ったカーシェアです。

2.カーシェア初!やさしい運転でおトクに利用

エコドライブ普及推進協議会が定めた「エコドライブ10のすすめ」にのっとり、「なめらか運転」「ふんわりアクセル」「加減速の少ない運転」「早めのアクセルオフ」「安心運転」「安全な走行速度」「定期休憩」の7項目で運転者の運転評価を行います。毎月、各項目により運転スコアを算出し、スコアごとに利用料金およびパックプランの料金変動する、従来のカーシェアとは異なる料金体系を導入※1しています。

※1:運転ごとにスコアの算出を行い、次回の予約時の利用料金へ反映

3.スマートフォンでクルマの予約から鍵の解錠・施錠まで!

専用のスマートフォンアプリで気軽にクルマの予約から決済まで完結できます。利用時のクルマの鍵の解錠・施錠もスマートフォンアプリで対応します。

「Patto」は、地域に寄り添ったモビリティサービスとして、カーシェアに新たな価値を提供します。

詳細は下記サイトよりご確認ください。 URL <https://patto.jp>



環境美化への取り組み

はまなこ環境ネットワークへの参加・協力

スズキは、社員とその家族の環境教育の一環として、2005年の「はまなこ環境ネットワーク」設立以来、ネットワークへの積極的な参加・協力を行っています。

「はまなこ環境ネットワーク」は静岡県環境局の委託を受け、浜名湖の環境保全に関する教育プログラムの実施やアマモ・アオサの再利用プロジェクト、地域環境の情報発信などの活動を活発に続けており、市民グループや学校、NPO法人、各種事業団体や企業など72団体(2018年4月現在)が登録している浜名湖の環境保全に関わる「集まりの場」となっています。

「はまなこ環境ネットワーク」は、毎年市民参加型の環境イベントを開催しています。2019年度も子供のいる家族を中心にした環境学習会「浜名湖エコキッズ体験塾2019&浜名湖ミナトリング」や、親子で浜名湖岸のごみの調査をしながら、プラスチックごみについて考える「浜名湖プラスチックごみ問題勉強会 子ども環境ワークショップ」が開催され、スズキ社員とその家族26家族70名が参加しました。

今後も、ひとりでも多くの人が座学や観察・清掃・農作業などの体験を通して、地元の貴重な財産である汽水湖「浜名湖」の豊かな自然を認識できるよう、スズキは環境教育や保全活動に参加・協力していきます。

● 浜名湖エコキッズ体験塾2019&浜名湖ミナトリング

「浜名湖の湖上遊覧・カキ棚の見学、干潟やアマモ場の生き物・アサリ養殖の観察」(2019年7月14日)

浜名湖いかり瀬にて ●浅瀬の生き物とアマモ場観察



● 浜名湖プラスチックごみ問題勉強会 (2019年11月17日)

庄内協働センター(浜松市西区庄内町)、館山寺サンビーチにて



浜名湖のごみ現地調査
(拾って、調べる)



現状、最近の取組み
(学ぶ)



プラスチックごみ対策の話し合い
(考える)

地域社会への支援活動

2019年度、スズキグループでは地域社会に対して以下の支援をしました。

日本	スズキ株式会社	令和元年台風第19号による被害に対する支援	被災した地域への支援として、日本赤十字社を通じて500万円の義援金の寄付
インド	マルチ・スズキ・インディア社	病院の建設	ザイダス病院と協力してグジャラート州のシタプールに100床のベッドを備える3万平方メートル規模の病院を建設中
		学校の建設	グジャラート州のシタプールに、近代的な教室、研究所、図書館などの施設を含む学校を建設中
		固形廃棄物管理施設の設置	マネサールに有機性廃棄物を堆肥に変換する固形廃棄物管理施設を設置
		水道整備	グジャラート州の村に水道管敷設、上水タンク建設、24台の飲料水サーバー設置、トイレ4,455据を各家庭に設置、下水道整備
パキスタン	パックスズキ社	公立学校の建設・改修	KP州の公立共学小学校の建設・改修プロジェクトを実施。教室、オフィス、洗面所、集会所を備えた校舎の建設・改修、家具類と音響設備の寄付、冷水器や遊具を設定



学校の建設(インド)



固形廃棄物管理施設の設置(インド)

TOPICS

新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた地域社会への支援・取り組み

日本

● 感染拡大防止

・布マスクの配布

スズキおよびスズキの製造子会社等従業員に、布製のマスクを配布しました。スズキの製造子会社(株)スニックと協力して生産し、スズキグループ社員の健康と安全を確保し、新型コロナウイルスの影響によるマスク不足を間接的に支援します。マスクは、柔らかい質感の浜松の伝統織物「遠州綿紬」を表生地を使用し複数の柄を用意しています。

・マスク生産の間接支援

スズキの販売子会社、(株)スズキマリンが取り扱う超音波溶着機を通して、マスク生産を間接的にサポートしています。

● 地元自治体への支援

・新型コロナウイルス感染症対応車両への支援

新型コロナウイルス感染症に対応する浜松市公用車「エブリイ」(5台)に、車両間仕切り用カーテンを提供しました。運転席と後部座席の間に仕切りとなる間仕切りカーテンを設置することで、軽症者の搬送に活用していただきます。



● おうちで過ごそう

・おうちトレーニング

スズキアスリートクラブ所属のアスリートが浜松市とコラボレーションし、「おうちで過ごそう」をテーマに、浜松市ホームページで「おうちトレーニング」動画を紹介しました。

インド

● 感染拡大防止

・人工呼吸器の製造支援

インド政府からの医療体制強化の要請を受け、マルチ・スズキのサプライヤーと協力し、人工呼吸器メーカーAgVa Healthcare社の増産を支援しています。

・マスクの生産・寄付

マルチ・スズキが出資する合弁サプライヤーであるクリシュナマルチ社が3層マスクを製造し、4月22日にハリヤナ州政府に、5月2日にグジャラート州政府に、それぞれ100万枚の寄付を開始しました。



● 地域社会への支援

・食事の提供

マルチ・スズキ社、スズキモーターサイクルインディア社では、ロックダウン中、派遣社員、実習生をはじめ、工場の近隣住民へ自社食堂で作った食事を提供しました。



●顧客サービス

・情報提供サービス

4月14日、ロックダウン中で長期間運転されない車両の取り扱いについて、2,500万通以上のSMSを通じて、お客様にアドバイスを送りました。

・販売店舗の感染対策

5月6日、マルチ・スズキの販売店向けに、試乗車の消毒、ソーシャルディスタンス、消毒薬使用、従業員の健康管理、マスク着用を定めた運営スタンダードを公開しました。さらに、5月15日には3,800カ所以上のサービスショップ向け標準業務手順を、5月26日には中古車店「True Value」の感染対策をそれぞれ公開しました。

・衛生関連用品の充実

6月4日、マルチ・スズキは3層マスク、ゴーグル、靴カバー、手袋、フェイスシールド、車内クリーナー、パーテーションなど、衛生関連のアクセサリーを追加しました。



その他の地域

●医療機関等への寄付・支援(イタリア)

スズキイタリア社は、コロナウイルス感染症に対する医療活動をサポートするため、NGOを通じトリノ市のアメディオ・ディ・サボイア病院へ30,000ユーロの寄付を行いました。

また、コロナウイルス下における市民保護活動、及び赤十字社の医療支援活動をサポートするため、欧州委員会人道援助・市民保護総局、及び赤十字社へそれぞれ1台ずつ車両の無償提供支援を行いました。



●医療従事者、物流配送従事者向けに車両提供(フィリピン)

スズキフィリピン社は、運輸省が推進する「医療従事者のための無料バス乗車プログラム」に参加するための支援として、商用車を提供しました。日々の通勤の負担を軽減するため医療従事者向けにキャリイ9台、また物流・配送向けにスーパーキャリイ1台、合計10台の車両を運輸省に貸し出しました。



教育支援活動

地元の学生にスズキのものづくりを紹介

地元の大学へ、スズキから講師を派遣し、人材の育成及び研究の活性化等を行う「スズキ寄附講座」や学生に産業界の現状を紹介する「スズキ冠講座」を開講しています。

●寄附講座

スズキは、静岡大学(工学部)において、2003年度から、研究者育成及び学術振興・社会貢献等を目的として、自動車の様々な要素技術研究に取り組む寄附講座を開講しています。

講座名称を「先進車両エネルギー工学」として、環境性能の高い先進車両の実現を目指した研究に取り組んでおります。

研究室では、「ものづくり」と「実験」、「解析」の一貫した研究を行っています。

また、学生に向けて「自動車工学」、「エネルギー・電子制御実験」を実施し、これらの講義、実験を通じて、技術者としてもものづくりに必要な知識を習得できる教育を進めています。

- 新講座名称：「先進車両エネルギー工学」スズキ寄附講座
- 研究テーマ：①モータコアの電氣的・磁氣的特性に関する研究
②モータ用磁石の温度推定に関する研究
- 講師：スズキから社員2名を特任教官として派遣
- 期間：2003年4月～2021年3月末までの18年間

●冠講座

静岡産業大学(磐田キャンパス)・常葉大学(浜松キャンパス)の2校において、地域社会の人材育成への貢献を目的に、学生に産業界の現状や問題への取り組み方を紹介する冠講座を開講しています。

- ・2019年度講座：100年に一度の大変革といわれる自動車業界において、「スズキの歴史と現況」、「ものづくりの考え方」、「新技術の取り組み」、「海外市場への展開」等について具体的な事例を中心に紹介

学生フォーミュラ大会

公益社団法人自動車技術会が主催する「第17回全日本学生フォーミュラ大会」が2019年8月27日～31日にかけて静岡県小笠山総合運動公園(エコパ)で開催されました。

学生フォーミュラ大会は学生が製作した車両により、ものづくりの総合力を競い合い、産学官民連携による自動車技術ならびに産業の振興に資する人材の育成を趣旨として開催されています。

自動車技術会に所属するスズキも運営協力や参加チーム支援を行っています。国内68チーム、海外22チームの計90チームが参加した17回大会では、静岡大学が3年連続の完走を果たすなど、スズキが支援するチームは上位成績を残すことができました。



※2020年度は新型コロナウイルス対応のため、オンデマンド授業を実施。



静岡大学

ものづくり講座

国内外の大学や地域企業向けに、スズキ歴史館や工場などで「輸送機器のものづくり講座」を行っています。2019年度は右記の通り実施しました。



6/5中核人材育成講座 輸送機器ものづくり概論



6/5中核人材育成講座 輸送機器ものづくり概論



7/9中核人材育成講座 板材成形概論

開催日	大学など、講座名	参加人数
4月11日	静岡大学 産業イノベーション特論講座 スズキのものづくり講座	16
4月18日	静岡大学 産業イノベーション特論講座 グローバル人材講座	16
5月30日	浜松地域イノベーション推進機構 中核人材育成講座 開校式特別講演「スズキのものづくりと海外進出」講座	47
6月5日	浜松地域イノベーション推進機構 中核人材育成講座 輸送機器ものづくり概論	32
7月9日	浜松地域イノベーション推進機構 中核人材育成講座 板材成形概論／湖西工場見学	32
7月10日	静岡大学 機械工学科 機械材料I	180
7月11日	名古屋大学サマープログラム(NUSIP) 歴史館見学	39
7月18日	静岡大学 機械工学科 塑性加工学	50
9月5日	早稲田大学 機械工学科 湖西工場見学	41
9月14日	静岡県教育委員会 高校生育成セミナー スズキのものづくり講座	38
9月20日	静岡大学/静岡理科大学 風洞実験業務見学	16
9月26日	モーターサイクル工学基礎講座 「運動性能」	441
9月30日	静岡大学 工学部 キャリアデザイン・研修 湖西工場見学	44
10月4日	静岡理工科大 自動車工学「車体構造」	44
10月11日	鹿児島大学 工学部 化学工学セミナー	70
10月23,24日	浜松中部学園 スズキのものづくり体験	9
10月24日	国際生産技術者協会日本支部 相良工場見学	20
11月7日	次世代自動車フォーラム2019 スズキのものづくり講座	300
11月20日	次世代自動車センター スズキのものづくり講座「サスペンションの基礎」	111
11月21日	可美中学校 スズキのものづくり体験	2
11月22日	静岡理工科大 自動車工学「自動車の運動学」	42
11月28日	日本機械学会東海支部 湖西工場見学	34
12月5日	東京大学/岐阜大学/福井大学 湖西工場/歴史館見学	8
12月5日	静岡大学/静岡市長田西小学校 社会科遠隔授業	120
12月6日	静岡市長田西小学校 歴史館/相良工場見学	120
12月10日	インド科学技術大学 さくらサイエンスプラン(科学 技術振興機構) 湖西工場見学	15
12月12日	静岡県中堅教諭研修 スズキのものづくり講座	7
2020年	1月23日 熊本大学 スズキのものづくり講座	100
	1月24日 浜松地域イノベーション推進機構 相良工場見学	40
	合計	2034

キッズエンジニア

公益社団法人自動車技術会が主催する体験学習型イベント「キッズエンジニア2019」が2019年8月7日、8日に開催されました。

スズキでは小学1年生から6年生を対象に、ものづくりの楽しさを感じてもらうため、スクーターの本物のエンジンを自分で分解・組立てしながらエンジンの仕組みと、エンジニアの心得について学ぶ教室型プログラム『バイクのエンジンってどーなっているんだろう』を提供しました。



陸上教室

スズキアスリートクラブは、オリンピックや世界陸上など国際大会で活躍できる選手の育成を目指し活動し、2004年のアテネオリンピックから2016年のリオデジャネイロオリンピックまで4大会連続で日本代表選手を輩出しています。

中村明彦選手(男子10種競技・リオ五輪日本代表)、新井涼平選手(男子やり投げ・リオ五輪日本代表)などオリンピックを中心に国内外で活躍するトップアスリートたちは、様々な地域で行われる陸上教室や講演会に協力し、自身の経験を踏まえ、日本の陸上競技の普及と発展、児童の体力向上に寄与しています。

今後もスズキアスリートクラブでは陸上競技の楽しさや、スポーツを通して得られる感動や夢を、子供たちに伝える活動を続けていきます。



スズキ歴史館 [\(https://www.suzuki-rekishikan.jp/\)](https://www.suzuki-rekishikan.jp/)

スズキは、1909(明治42)年に創業、1920(大正9)年に織機メーカーとして設立して以来、「価値ある製品を」の言葉のもとに、常にお客様の立場に立った“ものづくり”に情熱を注いできました。世界各国で生産・販売する今日でも、“ものづくり”にかける情熱は変わりません。

スズキ歴史館は、2009年4月に開館したスズキの“歴史”や“ものづくり”を紹介する展示施設です。織機・二輪車・四輪車・船外機など、時代とともに歩んできた創業以来の多くの製品と、現在のクルマづくりの様子が展示されています。

開館以来、約75万人のお客様にご来館いただいています。



スズキ歴史館

スズキ歴史館の施設ご紹介

スズキの歴史フロア

1909年の織機から始まるスズキの歴史、二輪分野に進出した1952年発売のバイクモーター「パワーフリー号」、量産型軽自動車として日本初となる1955年発売の「スズライト」、1970年発売の「初代ジムニー」(LJ10型)、1979年に47万円で発売された「初代アルト」など、懐かしいクルマを趣向をこらした演出で見ることができます。



創業当時の織機



パワーフリー号



スズライト

スズキのものづくりフロア

現在のクルマづくりをテーマに、新しいクルマが誕生するまでの企画・開発から生産・販売までの過程を、順を追って展示しています。

スズキのクルマが工場でのようにつくられていくかを迫力のある3Dシアター「ファクトリーアドベンチャー」で見ることができます。さらに、実物大の組立ラインの展示もあり、クルマの製造現場を疑似体験できます。

工場で活躍するロボット、スズキの海外でのものづくりを紹介する映画「ワールドアドベンチャー」、地元・遠州地方を紹介するコーナーなど、多彩な仕掛けで、マニアだけでなくクルマに興味を持ち出す年頃の子供たちにとっても楽しめる施設となっています。



デザインルーム



組立ライン



遠州コーナー

社会科見学

スズキ歴史館は、自動車産業についての理解を深める小学校の校外学習の場として、多くの小学校にご活用いただいています。実際のスズキの生産現場を見学する「工場見学」と、クルマを生産する前の開発プロセスを紹介するスズキ歴史館を併せて見学することで、クルマができる工程を詳しく学習することができます。

社会科見学の推移



社会科見学の様子(2019年撮影)

ものづくりイベント

地域社会との交流の場として、“ものづくり”に対する興味を持ってもらうために子供向けイベントを実施してきました。スズキの“歴史”や“ものづくり”にちなんだ体験学習を内容とし、子供たちには教科書での勉強とは違ったかたちで楽しんでいただいています。



ものづくりイベントの様子(2019年撮影)

スズキ歴史館では、子供たちの“ものづくり”に対する興味を育むためにこれからもイベント等を企画していきます。また、多くの小学校の社会科見学を受け入れることで子供たちに自動車産業について知識を深めてもらいたいと考えています。そして、地域の皆様から喜ばれる施設となるよう努力を続けていきます。



国内工場・技術センターの取り組み

湖西工場の取り組み

●工場見学の受け入れ

2019年度社会科校外学習の一環として、静岡県下118校(小学5年生対象)、延べ9,500人の児童を湖西工場見学会へ受け入れました。

プレス・溶接工程、組立工程の生産現場を間近で見学してもらうことで、ものづくりのおもしろさを体験していただくことができました。



●工場秋祭りの開催

従業員とその家族及び地域住民の方々と親睦を図るため、2019年9月28日に秋祭りを開催しました。約3,200人の方が参加し、地元自治会による手踊りや、中学校の音楽部演奏会、各種模擬店、キャラクターショー等を通し、大いに盛り上がりました。



●地元自治会との交流会

地元の皆様と情報交換することにより、より深い相互理解が得られるものと考え、年1回、地元自治会との交流会(湖西工場見学会)を開催しています。この交流会では、湖西工場の概要の説明を行ない、生産ラインの他、焼却施設を見学していただきました。



●湖西工場周辺道路の5S活動

環境保全活動の一環として、スズキは構内協力企業の皆様とともに、年3回、延べ150人で周辺道路の清掃活動を実施しています。また、環境意識の向上を図るため、従業員や納入業者に対して「ポイ捨て禁止」の呼び掛け等も行いました。



●湖西工場周辺地区の街頭指導

従業員の通勤路や工場周辺交差点において、シートベルトの着用、交差点における運転マナーの向上や交通事故防止を目的として街頭指導を行っています。

2019年度は延べ600人の従業員が街頭で行い、安全で安心な街づくりに協力しました。



●「青少年の科学体験」への参加

湖西市教育委員会主催「青少年の科学体験」へ参加しました。

スズキ湖西工場ブースではロボット・からくりの動作体験、ジムニーのクラフトカーづくりを出展し、多くのお子様にもものづくりの楽しさ、不思議さを学んでいただくことができました。



磐田工場の取り組み

●工場周辺の清掃活動

工場周辺の環境美化を目的として、月に1回、工場周辺のゴミ拾い活動「クリーン作戦」を実施しています。また、全市一斉「環境美化の日」に、地元自治会の皆様と一緒に地域美化活動に参加し、工場周辺の環境保全に取り組んでいます。



●工場見学の受け入れ

主に地元学校の社会科校外学習の一環として、工場見学の受け入れを行っています。2019年度は26校557名の生徒・児童が磐田工場を訪れました。磐田工場の歴史と概要を説明した後、溶接工場と組立工場を見学し、実際の自動車づくりの現場を体感的に学習していただきました。見学を通じて、工場で働く社員の様子や、工夫している点など、地元製造業の工場をよく知っていただく場として活用されています。



●地元の皆様との交流会活動

「地域と共に発展する」を目指し、スズキの環境への取り組み等に関して、地域の方々との相互コミュニケーションを図る情報交換会を毎年実施しています。地元自治会役員及び有志の方々を招き、工場見学を行い、スズキの事業内容や環境への取り組み等について幅広く意見交換を行っています。また、3ヶ月に1回、磐田工場の環境対策の状況を地元自治会に公表し、相互理解を深めています。



●交通安全街頭指導の実施

従業員の交通安全に関する意識向上、交通ルール遵守、交通マナー向上のため、工場周辺で社内交通安全部会員による街頭指導を定期的に行っています。



●工場秋祭りの開催

従業員やその家族、地域住民の方々との親睦を図るため、2019年9月28日に秋祭りを開催し、約2,100人の方にご来場いただきました。地元自治会の皆様による子供神楽披露を始め、キャラクターショーやダンスショー、従業員が企画したイベント（綱引き大会、金魚すくい）、各種模擬店、もち投げ大会と大いに盛り上がりしました。



●地下水かん養事業への参加

植樹や間伐による森林保全活動を目的として毎年開催される中遠地域地下水利用対策協議会と磐田市環境保全推進協議会共催の地下水かん養事業に参加しています。他企業の方々と共同で植樹や間伐による森林保全活動に取り組んでいます。



相良工場の取り組み

●相良事業所の環境マネジメントシステム適用範囲を拡大し、相良コースを追加

相良事業所の敷地内で車両の開発を行う相良コースは、これまで環境マネジメントシステム適用範囲外としていましたが、2018年よりマネジメントシステムを構築、2019年8月に相良コースも適用範囲に加わり、ISO14001の認証を受けました。これにより、事業所全体で環境負荷の低減、法令順守への取り組みを強化することができました。



●工場周辺の清掃活動

地域環境維持活動として年3回、関係会社の皆様と共に、事業所周辺の清掃を実施しています。2019年度は121名が参加しました。ゴミのポイ捨てをなくすため、看板設置の要望を市役所に要望するなど、積極的に地域環境美化に取り組んでいます。



●地元の皆様との交流活動

毎年2月にスズキの事業内容や環境への取り組み等に関して、地元の皆様との相互コミュニケーションを図る情報交換会を実施しております。

2019年度は2020年2月に実施し、地元の代表者、牧之原市担当者など18名の方々にご参加いただきました。



●工場秋祭りの開催

従業員やその家族、地域の住民の方々との親睦を図るため、2019年9月28日に秋祭りを開催しました。約3,300人の方々にご来場頂き、地元中学生の演奏会や地元商工会による軽トラ市、模擬店、キャラクターショー、子供ビンゴ大会等で大いに盛り上がりました。



●工場見学の受け入れ

主に小学校の社会科校外学習の一環として、工場見学の受入を実施しています。2019年度は115校7,018名が工場見学に訪れました。工場の概要説明を行い、プレス・溶接工程及び組立工程の生産現場を見学し、安全・品質や生産面で工夫している点、「車ができてからの流れ」を学習する場として活用されています。



●交通安全への取り組み

自動車学校での交通安全教育や街頭での立哨などを通じ、自動車メーカー従業員として地域の方々の模範となるべく交通法規・マナー遵守を指導しています。



浜松工場の取り組み

●工場外周の歩道のゴミ拾い及び雑草刈り

5月、9月、工場外周のゴミ拾い及び雑草刈りを行いました。各回約25名が参加し、環境活動として取り組みました。



●交通安全街頭指導

地元安全運転管理協会の活動に合わせ、毎月10日、20日、30日に、工場周辺の街頭指導を実施しています。従業員の運転マナーの向上及び、交通事故防止を目的として、呼びかけを行っています。また、月1回、地元交通安全協会の街頭指導に参加しました。

●地元の皆様との交流活動

12月に工場に隣接する地域の区役員を招き、交流会を開催しました。工場内の設備見学と環境への取り組みの説明等で環境活動をご理解頂きました。



●工場秋祭りの開催

従業員、家族、地域の方々と親睦を図るため、工場内を会場として9月に秋祭りを開催し、約2,800人の来場者がありました。地元高校ダンス部、地元ジャズオーケストラによるステージ、子供に人気のキャラクターショーで盛り上がりました。従業員による模擬店、抽選会、餅投げも大変好評でした。



大須賀工場での取り組み

●工場周辺の清掃活動

工場周辺の環境美化を目的として、工場周辺のゴミ拾い活動を定期的に行っています。2019年度は、工場周辺の道路を中心に、3回清掃活動を行いました。今後も従業員への環境教育を実施し、環境保全活動に取り組んでいきます。



●地元神社大祭終了後の清掃活動

毎年4月に、地元の三熊野神社大祭終了後、神社周辺の清掃活動に参加しています。2019年度は、新入社員を中心に清掃活動を行いました。地域に根付いた恒例行事として定着しており、今後も継続していきます。



●地域の皆様との交流活動

スズキの環境への取り組みや事業内容について、地域の皆様との相互コミュニケーションを図ることを目的として、年1回、近隣自治会の皆様に工場にお招きし、工場見学及び懇談会を行っています。2019年度は、7自治会の皆様にご出席頂き、11月6日に開催しました。今後も「地域と共に発展する工場」を目指し、地域の皆様との交流を深めていきます。



●工場秋祭りの開催

2019年9月28日に、地元の皆様との親睦を深める工場秋祭りを開催しました。当日は、1,650名が来場され、地元の児童生徒の皆様による演奏などで、盛大に盛り上がりました。



●交通安全立哨指導

毎月、10日、20日、30日に、工場正門前で立哨指導を行い、従業員の運転マナー向上、交通ルールの遵守と正しい交通マナーを実践する活動を展開しています。



●交通安全街頭指導の実施

年4回の全国交通安全運動期間中は、地元の皆様と共に、街頭指導に参加し地域の交通事故防止活動に取り組んでいます。



●工場見学の受け入れ

地元、大須賀中学校からの依頼を受け、第1学年の生徒約100名を対象に2019年9月4日に工場見学会を実施しました。製造工程の見学・完成車の展示の他、地元の皆様との交流や、環境に関する取り組みについて、事例を交えて説明しました。



二輪技術センター(竜洋コース)の取り組み

●スポーツ競技大会への竜洋コースの開放

2019年度、地域のスポーツ団体の要望により、スズキ二輪技術センター(竜洋コース)を下記のスポーツ大会に開放しました。

- ① 2019年5月・8月 トライアスロン協会(自転車強化練習)
- ② 2019年9月 第27回サンライズ イワタ IN 竜洋大会 トライアスロン競技大会
(トライアスロン競技中のバイクで当コースを使用)
- ③ 2019年12月 磐田市駅伝大会
(小学生4区間6km・一般4区間6km/5区間17km)

社会人から小・中学生まで、幅広く竜洋コースを開放し、地域スポーツ団体や青少年の健全育成活動に貢献しています。



サンライズイワタ IN 竜洋大会
(2019年度の様子)

マリン技術センターの取り組み

●マリン技術センター周辺の交通安全街頭指導

マリン技術センターでは、春、夏、秋、年末の年4回の交通安全運動期間の稼働日の朝、マリン技術センター入り口と近くの交差点で屋外立哨指導を行っています。2019年で11年目になるこの活動は従業員と近隣の皆様の交通安全と交通安全意識の向上を願い、行っています。(写真は年末の立哨指導)



●マリン技術センター マナーアップ活動

マリン技術センターでは「マリン技術センター マナーアップ活動」として地域への貢献及びボランティア・環境美化を目的とし、マリン技術センター周辺のゴミ拾いを実施しています。2019年度は6月26日に実施しました。





国内販売代理店の取り組み

(株)スズキ自販山形

●省エネ設備の導入によるCO₂削減

新庄営業所では、冬場のお客様駐車場の除雪のために、地下水の熱を利用した無散水融雪装置を導入しました。石油を燃料として使用する融雪装置と比べ、発生するCO₂を大幅に削減できました。



(株)スズキ自販茨城

●茨城国体に広報車両で協力

茨城県では45年ぶりとなる第74回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体」が開催されました。オフィシャルサプライヤーとして協力した当社は、国体広報車として「ソリオバンディット」を貸出し、県民をあげて茨城の魅力を全国に発信しました。



●整備専門学校で技術講習会を実施

県内の整備専門学校で講習会を実施しました。スズキの最新の環境技術を紹介する技術講習、自動ブレーキなど安全装備の体験講習や、実習車を使った点検実習をはじめ、チームワークづくりを目的としたクラスのコミュニケーションを深めるグループワークなどを行いました。



(株)スズキ自販福岡

●仕事と子育ての両立支援

当社は、福岡県が推進している「子育て応援宣言企業」制度に登録しています。2019年11月には、従業員の仕事と子育ての両立支援で特に顕著な成果を上げている県内6社のひとつに選ばれ、知事表彰を受けました。



(株)スズキ自販宮崎

●安全運転講習会の実施

電動車いす「セニアカー」の試乗を交えた安全運転の説明会と、自動車「安全運転サポート車」の体験試乗会を合わせた安全運転講習会を実施しました。2019年度は宮崎市、小林市、えびの市、新富町などで合計9回実施し、延べ338名にご参加いただきました。



(株)スズキマリン

●合同水難救助訓練への協力

2019年6月、出入公共マリーナ「コデマリン」付近の浜名湖において、湖西市消防本部、静岡県マリーナ協会などの機関や団体が参加した合同水難救助訓練が行われました。スズキマリーナ浜名湖からもレスキュー艇が参加し、各機関と連携して要救助者を救出する訓練を行いました。



●マリンウィーク(ボート試乗会)の実施

2019年8月、浜名湖近隣の子供会のお子様を対象にボート試乗会を実施しました。乗船の際の基礎知識などの講習をした後、実際にボートに乗船し、海や船について興味をもっていただきました。





海外グループ会社の取り組み

インド マルチ・スズキ・インディア社

マルチ・スズキ・インディア社は国家全体の人材開発における優先事項に沿って、地域社会開発、交通安全、能力開発の分野でCSRプロジェクトを実施しています。地域社会の生活に有意義で持続的な影響を与えることを目的としたCSR方針を定めています。

地域社会開発への取り組み

社会環境改善を目的としてハリヤナ州、グジャラート州を中心に26村で地域社会開発プロジェクトを実施しています。これらの取り組みは水道、公衆衛生、健康、教育、地域社会の共有インフラに焦点を当てています。

●健康

地域社会に貢献するために、ザイダス病院と協力してグジャラート州のシタプールに100床のベッドを備える3万平方メートル規模の病院を建設中です。救急医療および専門医療サービスを提供しており、同地域では他に類を見ない病院です。2021年4月までに開業予定です。



グジャラート州のシタプールに建設中の病院の完成予想図

グジャラート州のベチャラジにある健康センターは2018年から運営されていて、高度な診断設備、救急医療、救急車を完備しています。開業以来、13,000人以上の患者が治療を受けてきました。さらに、ハリヤナ州とグジャラート州にある他5村にある地域健康センターの医療インフラも改善しました。



グジャラート州ベチャラジの健康センター

ハリヤナ州ロータックにある4村で貧血症改善プロジェクトを実施しました。この活動を通して貧血症と栄養の重要性について意識を高めることができました。これまでに地域社会の女性11,000人以上が恩恵を受けています。



貧血症改善啓発活動

●教育

グジャラート州のシタプールに学校を建設中です。同校には近代的な教室、研究所、図書館などの施設が設置され、地元出身の学生約1,500人を受け入れる予定です。主な教棟は2021年6月から開校予定です。



グジャラート州シタプールに建設中の学校

●水道

ハリヤナ州のマネサルで雨水涵養プロジェクトを開始しました。年間約130万リットルの雨水が涵養されています。同地域の地下水位を改善することができます。

村には24台の飲料水サーバーが設置されました。地域社会の人々に手頃な価格で飲料水を供給しています。

また、グジャラート州の村に水道管の敷設や上水タンクの建設を実施しました。地域社会の人々への飲料水供給が改善できました。



飲料水サーバー

●公衆衛生

マネサルには有機性廃棄物を堆肥に変換する固形廃棄物管理施設が設置され、埋め立て処分される固形廃棄物を削減しています。この施設では2村における53,000人分の廃棄物を処理することができます。また21村において家庭ごみの収集も支援しています。



マネサルの廃棄物処理施設

2,000人以上の小学生が、日本の絵本「もったいないばあさん」という読み聞かせプログラムを通して、廃棄物削減のコンセプトについて教育を受けました。

その他、村の衛生状態を改善するために、4,455据のトイレを各家庭に設置し、下水道を整備しています。



「もったいないばあさん」読み聞かせ活動

能力開発への取り組み

能力開発プログラムにより産業に関連する技能訓練を若者達に提供しています。この取り組みにより、彼らが製造業とサービス業でより良い雇用機会を得ることができています。

●日本式ものづくり学校

(JIM: Japan-India Institute for Manufacturing)

若者達へ職業訓練を提供するJIMを設立しました。グジャラート州メーサーナにある第一校の成功に基づき、2019年度に第二校をハリヤナ州のウンチャマジラに設立しました。

JIMはインド製造業において熟練した労働力を確保するために、日印両政府が協力して設立されました。

JIMでは最新の産業訓練整備工場を活用した自動車関連の技術実習を実施しています。また日本式ものづくりに関する実習、一般財団法人海外産業人材育成協会(AOTS)と連携したソフトスキルに関する実習も実施しています。

これまでにグジャラート州にある第一校から輩出した第一期および第二期の卒業生の就職率は100%です。



スズキ専門家による技術実習



ポータブルスポット溶接実習

●職業教育機関(ITI: Industrial Training Institutes)の支援

43ヶ所の政府系ITIを支援しています。支援内容は、整備工場のインフラ改善、製造業および日本の製造業の実務に関する訓練の提供、即戦力としての教員および学生の産業への輩出強化、ソフトスキルの付与などが含まれます。

●自動車技能向上センター

(ASECs: Automotive Skill Enhancement Centres)

ITIに83ヶ所のASECsが設置されています。同センターで学生は自動車サービス関連の職業訓練を受けています。



車体修理実習

交通安全への取り組み

安全意識や運転技術の向上を目的に交通安全に関するプロジェクトを実施しています。

●運転免許試験場の自動化

デリー運輸局と協力して、デリーに12ヶ所の自動化された運転免許試験場を設置しています。これらの試験場では高解像度カメラおよび先進技術を使用して、運転免許試験のリアルタイム映像を記録します。より客観的な方法で運転免許証を発行することができます。

ウッタラカンド州では、同州運輸局と協力して運転免許試験場が設立されました。



ウッタラカンド州の自動化された運転免許試験場

●交通安全管理システム

(TSMS: Traffic Safety Management System)

デリー警察と協力して、デリーの13ヶ所の重要な交差点にTSMSが導入されています。このシステムは高解像度レーダーとカメラを使用して交通違反を記録します。中央警察の管制室に情報を送り、管制室から交通違反者に警告を送ります。



交通安全管理システムの管制室

●運転交通研究施設(IDTR: Institutes of Driving Training and Research)

州政府と協力して、7ヶ所のIDTRを設置しています。IDTRは科学的に設計された試験場と運転シミュレーターを使用して、質の高い運転訓練を提供しています。チャッティスガル州およびジャンムー・カシミール連邦直轄領にIDTRを新設する予定です。

●学校における交通安全教育

デリーにある52校の小学校において、交通安全について学生を教育することを目的とした「キャッチ・ゼム・ヤング」プロジェクトを実施しています。学生は家族の間で交通安全の意識を広めるよう奨励されています。

パキスタン

パックスズキモーター社

パックスズキ社は、社会に対する責任ある企業組織として、教育、保健、特に環境への対応を推進し、恵まれない人々のQOL向上に貢献することで、社会福祉に貢献しています。

教育支援

● 服役者の社会復帰支援冊子を健康・教育・環境推進団体に寄贈

社会福祉の分野に関わる非営利組織SAHEE（健康・教育・環境推進協会）に小冊子「しあわせへの道」5,100冊を寄付いたしました。この小冊子は刑務所服役者が正しい道を歩むことで正常で幸せな生活を送るための社会復帰支援小冊子であり、幸福、自己管理の仕方、ライフバランスの維持、他人を尊重し助けること、悪い行為を避けることに関する情報を提供しています。



● 公立学校の建設・改修

ニシュトラバード居住区（KP州）のウルトゥー公立共学小学校の建設・改修プロジェクト（2019年7月18日に開始）を行いました。このプロジェクトで5教室、オフィス、洗面所、集会所を備えた校舎の建設・改修、家具類（ベンチ、椅子、食器棚、テーブル等）と音響設備の寄付、冷水器と遊具の設定等を行いました。



● NED工科大学奨学金授与

NED工科大学はパキスタンで最も評価の高い大学の1つで、1922年以来パキスタンの科学発展に貢献しています。当社は、NED工科大学向けに奨学金プログラムを実施することでパキスタンの経済・社会発展に貢献するため、同国の高等教育を支援しています。2019年8月22日に開催されたNED奨学金授与式では、NED工科大学の学生を対象に合計6名に奨学金が授与されました。2013年から2019年まで、合計211名のNED工科大学の学生に奨学金を授与しました。



● SAM研究所へのスズキ・ボランバン寄贈

2019年9月26日にアボッタバード（KP州）のSAM特別教育・リハビリ研究所に特別支援児童や教員の送迎用としてスズキのボランバンを寄贈しました。SAM研究所は、身体的・精神的障害、及びセラセミア等といった疾病を持つ子どもたちが、より健康で正常な生活を送れるよう、身体的・知的訓練を通じて支援しています。SAM研究所は加えて学生教育、自閉症等の障がいのある子どもたちへの社会からの認知向上といった活動に注力しています。



● 安全衛生・環境教育

2019年5月3日、パックスズキ社従業員の子供たちを対象とした安全衛生と環境に関する教育を実施しました。セミナー内では、安全・安心の重要性、環境問題、健康維持のためのヒント等を取り上げ、合計37名が参加し、併せて工場見学も実施しました。



● ベイシックニーズパキスタン法人への寄付

2019年12月17日に女性支援団体ベイシックニーズパキスタン法人にミシン、カッティングテーブルなど裁縫関連用品、文房具、医薬品・販促資材等を寄付しました。同法人は、援助クリニックや生計支援プログラムを通じ心療医療と社会・経済サービスを提供することで、精神疾患やてんかんに苦しむ恵まれない女性たちを支援しています。当団体では学生は衣服のデザイン、衣服・ハンドバッグ作り、刺繍などの職業訓練を無料で受けられます。精神科の患者の方々には、診察や薬を無料で提供しています。



サプライヤー支援

● 啓発セミナー「サプライヤーCSRガイドライン」

当社は、お客様の安全、環境保全、法令・社会規範に配慮し、ステークホルダーとの適切な関係を保ちながら事業を運営することを使命としています。ステークホルダーとの相互理解と信頼を深めていくために、「取引先様向けCSRガイドライン」に関する啓発セミナーを実施し、取引先様とともに社会的責任に関する考え方や課題を理解しました。2020年1月には、カラチ、及びラホールに拠点を置く取引先でこのセミナーが実施され、約100社の取引先様の代表が参加しました。



交通安全

● 安全運転技術啓発セミナー

自動車運搬作業者の安全意識の向上と安全運転の確保を目的として、社内において、2019年11月29日に安全運転技術に関する啓発セミナーを実施しました。安全運転技術、高速道路の運転ルール、車両整備のポイントなどを経営企画部が説明しました。啓発セミナーでは、道路標識、運転技術、事故、注意事項に関して写真やビデオを通じたデモンストレーションも行われました。



環境活動

● ムルタン地方事務所での植樹活動

当社ムルタン地域事務所が同地域のディーラーの協力を得て、2019年3月1日から4月30日にかけて環境保護の重要性に対する認識を高めるため、植樹活動キャンペーンを実施しました。合計17ディーラーが植樹活動に参加し、工業団地、公園、学校、大学、病院など様々場所に合計47,150本分の植樹を行いました。



地域の健康促進活動

● 献血活動

バックスズキ社内で2019年6月21日、24日の2日間でインダス病院と合同で献血キャンペーンを開催しました。同病院の献血センターは、パキスタン初の地域献血センターであり、差別なく社会のあらゆる方々に血液を供給するというビジョンを持っています。今回のキャンペーンでは合計253人が献血を行い、うち40人は近隣地域の取引先様、販売店からご参加いただきました。

ムルタン地域事務所も2019年7月15日、インダス病院と合同で献血キャンペーンを行い、合計27人が献血を行いました。



インドネシア

スズキ・インドモビル・モーター社

教育支援活動

●学生の工場見学

工業製品、技術、製造プロセスに対する学生の関心と知識の向上に貢献するため、小学校から大学までの学生を対象にスズキの工場見学会を実施しました。2019年度は186の学校から16,500名を超える学生をチカラン工場とタンブン工場へ招待しました。



●従業員とその家族の工場見学会

従業員とその家族の工場見学会を開始しました。この活動では、労使関係のさらなる強化、従業員家族に職場を紹介することにより、従業員およびその家族に、スズキグループの一員としての誇りを持ってもらうことを目指しています。2019年度は239名を招待しました。



●スズキの安全啓蒙活動“GESIT”

交通事故件数の減少を目的に、スズキは“Gerakan Suzuki Peduli Keselamatan/GESIT”という交通安全教育プログラムを中学生向けに実施しています。この活動ではチカラン工場に生徒達を招待し、交通安全セミナーと安全運転のデモを実施しています。また同工場内で生産している当社主力製品の新型エルティガの製造工程見学の機会も設けています。

2019年度はタンブン工場、チカラン工場近郊の30の中学校より2,876名の生徒を招待しました。本プログラムを通じて若年層の安全意識を高め、交通事故減少に繋がることを期待しています。



●学校への寄付活動

学生教育への支援を目的に、スズキは専門学校と大学を対象に寄付活動に取り組んでいます。2019年度は全国の学校へ合計15台（専門学校に13台、大学に2台）の自動車を提供しました。こうした活動が、将来のインドネシア自動車産業を背負う優秀な人材となる学生の育成に繋がると考えています。



●学生エコカーコンテストへの協賛

研究技術・高等教育省が主催する学生エコカーコンテストに協賛し、本イベント期間中、スズキのマイルドハイブリッド技術「Smart Hybrid Vehicle by Suzuki (SHVS)」を紹介しました。こうした活動を通じ、将来のインドネシア自動車産業を担う技術者となる学生達を刺激することを目指します。



タイ スズキ・モーター・タイランド社

●環境保全活動

スズキ・モーター・タイランド社では積極的にCSR活動に取り組んでいます。
2019年12月21日に環境保護活動の一環として、ラヨン県バンチャン地区の森林において、大雨による土砂流出を防ぐため砂防ダムを作る活動を行いました。活動はタイ政府森林保護局と合同で行い、同社からは180人の従業員が参加しました。



ベトナム ベトナムスズキ社

●工業団地内の清掃活動

ベトナムスズキ社の工場があるロテコ工業団地(ドンナイ省ビエンホア市)に進出している日系企業が集まり、工業団地内とその周辺地域の清掃活動を行っています。毎月第2水曜日の早朝、ベトナムスズキ社からも現地のベトナム人社員を中心に自主参加し、ポイ捨てゴミの清掃活動を実施しています。社員の意識向上のほか、近隣地域にゴミのポイ捨て禁止をアピールすることで、工業団地内のゴミ削減にもつながっています。



フィリピン スズキフィリピン社

●交通安全教育の実施

スズキフィリピン社は2018年から、交通安全運動「スズキセーフティースカウト運動」を展開しています。ドライバーと歩行者の不注意と交通規則違反による交通事故の増加を受けて実施しているこの活動では、子どもたちはセーフティースカウトの制服を着て、基本的な交通ルールやマナーについて勉強することができます。2019年度は1,140人の子どもたちが参加しました。この取り組みが責任感のあるドライバーとより安全な道路のある国を作ることに役立つと考えています。



ミャンマー スズキミャンマーモーター社・スズキティラワモーター社

●スズキ特製学習ノートを工場周辺の公立小学校に贈呈

2019年9月25日～2020年2月20日の間、ティラワ工場とサウスタゴン工場周辺の公立小学校計10校を訪問し、スズキ特製学習ノート(スズキ四輪車の写真入り)48,000冊を児童に贈呈しました。



●職業技術訓練学校に教材用車両を贈呈

2019年11月8日、日本・ミャンマー・アウンサン職業技術訓練学校に教材用のスズキ車3台、自動車部品及び研修教材を贈呈しました。



オーストリア スズキオーストリア社

●植林活動

スズキオーストリア社は同国の森林局を支援し、2020年に購入されたスズキ車1台ごとに植林を行っています。気候変動の影響は、オーストリアの森林に深刻な被害を与えており、キクイムシの発生により、多くの樹木を被害にあわせ、死に至らしめています。当社は森林局と協力し、被害の大きい地域でも幼木が育つようサポートしています。



スペイン スズキモーターイベリカ社

●燃費トライアルによる寄付イベントの開催

スズキモーターイベリカ社は「Liters x Kilos」と呼ばれるイベントを19年12月に開催しました。今年で4回目となる当イベントは、スズキ「ビターラ」を、公式値よりも良い燃費でジャーナリストに運転してもらったものです。57.4kmに及ぶルートを走行し、トップのチームは4リッター/100kmを達成し、公式値より2.1リッターも下回る結果となりました。当社はこの燃費差分を基準に食料を寄付しており、今回は2,000kgの食料をマドリードの食料援助団体に寄付しました。



ハンガリー マジャールスズキ社

●スポーツ活動の支援

エステルゴム市のラグビーチームやキックボクシング団体、卓球団体、合気道神武館道場、ドログ町のハードアスレチッククラブ、マリアバレリア橋ランニング、ハーフマラソン、フルムーンランニング、シュトゥーロヴォ町の子どもの水泳大会、バレーボール大会、二輪車競技大会を含むコマロム-エステルゴム県の様々なスポーツ活動を支援しています。



●教育活動の支援

ハンガリーイノベーション協会が主催する「第29回青少年科学イノベーションコンテスト」や、SEFI(欧州工学教育協会)の年次大会など、ブタペストで開催された教育イベントを後援しました。



ニュージーランド スズキニュージーランド社

交通安全活動

仮免許運転者向け「Eドライブ」と企業向け「フリートコーチ」は、交通安全の専門家によって開発されたオンライン学習ツールです。実際の映像を基にした場面を通して、ユーザーが効率的な視線移動や危険察知のトレーニングに集中できるよう指導するものです。スズキニュージーランド社はこのオンライン交通安全訓練ツールを長い期間支援しており、全てのトレーニングでスズキ車のダッシュボードとインストゥルメントパネルが使用されています。



南アフリカ スズキオート南アフリカ社

教育支援活動

読み書きの能力向上や教師へのトレーニングや支援を目的とした活動を、南アフリカ各地の地方にある学校で行っており、集会が行われる週末に、各スポンサーが指定された学校へ教材を届けます。2019年度にスズキオート南アフリカ社は、クワズール・ナタール州および東ケープ州の学校へ教材を寄付しました。



生態系保護プロジェクトの支援

当社は、アフリカにおける気候変動の影響を調査する「カラハリ絶滅危惧種生態系保護プロジェクト」を支援しています。様々な機関の調査団、研究者たちに対して、保護区における動物の運搬やデータ収集に使用する車両として「ピタラ」2台を提供しました。



盲導犬協会への支援

当社は南アフリカ盲導犬協会が昨年末に行った、車両抽選券キャンペーンに対して、「スイフト」を寄付しました。このキャンペーンを支援するのは今回が3度目で、同協会は目が見えない人々に対して、独立やモビリティ、人との交友を支援しているほか、様々なサービスも提供しています。

Week ending 13 March, 2020 FOURWAYS REVIEW www.fourwaysreview.co.za | #neighbourhood

Superb prize for a good cause

Rebyn Kirk rebyn@fourways.co.za

"What woof, heep heep! Tails were wagging with joy on 6 March when the winner of the 2019 South African Guide Dogs Association car raffle, Yolanda Prinsloo, was handed the keys to her brand-new Suzuki Swift GLi, all the more-profit organisation's promises in franchise". The raffle, which saw members of the public paying R20 a ticket to enter the draw, managed to raise over R520 000.

"I'm so excited to have won, I spent about R2 000 on tickets for this raffle, she told the Fourways Review just after being handed the keys to her brand-new ride.

"The work that guide-dogs association does is amazing because for people who can't see, this organisation takes the time and effort to give them guide dogs and other donations to help them live a good life.

"I plan to become a volunteer with the organisation in the future because of the work they do."

The 2019 competition was the third year in a row that Suzuki has sponsored the prize of a Suzuki Swift GLi. For the 2020 raffle, the company will also be providing the prize for the 2020 raffle.

"It's wonderful to support the South African Guide Dogs Association, and it's even more wonderful to see another person behind the wheel of a Suzuki, as the Swift is one of our best selling models. We are so proud to support and be associated with this organisation.

"For the 2020 raffle, we've sponsored the prize of a Suzuki Swift GLi ME."

The association hopes that this year's raffle will bring in even more money, ideally R1 million, which they can use to train working dogs which provide support for the visually impaired, the disabled and children with autism.

"Today we're celebrating our lucky winner, but you can be the next lucky winner too," said Nadia Sande, who does the marketing.

"Raffle tickets cost R50 each, and people should keep an eye on our website where they'll be on sale soon."

Details: For more information, visit www.guidedog.org.za/shop

Pooches look for smooches

These dogs may have had a hard time to life, but now they are ready to go to their forever homes. The Pet Empowerment in the Townships (PET) organisation has a number of animals up for adoption. People who are interested in adopting a dog or cat are asked to contact PET, complete an application form and submit to a home visit. If the adoption is approved, there is an adoption fee of R1500 which includes a microchip, deworming, up-to-date vaccinations (premier is on your own account) and identification if they are over six months. To adopt Jay-Jay, contact Glenda Pickering glendapickering@gmail.com, 082 861 4323. To adopt Teddy, contact Laura Whitaker laura.whitaker@gmail.com. Visit www.petlight.org.za for more information.

JAY-JAY is a three-year-old male weaver. He is a very obedient and well-behaved dog who needs a well-fenced garden. He is very playful and he is the centre of Jay Jay's world it really wonderful to be able to train working dogs which provide support for the visually impaired, the disabled and children with autism.

TEDDY is a six-year-old female chow-chow. She is a very obedient girl who easily follows direction, walks very well on a lead and does not pull. She loves all people, young and old. Teddy has a visual impairment - she can see most things but struggles to focus on something close up. She needs a home with no open pools or access to the driveway. Otherwise, she opens absolutely fine like a normal dog.

海外生産会社の人材育成支援

(一財)海外産業人材育成協会(AOTS)の受入れ研修事業への参画、また海外生産会社からの研修生の直接受入れにより、社内の各部門で研修を実施しています。これらの研修は、海外生産会社の生産活動を支える実践的な技術や技能の移転を効率的に行うことで開発途上国の産業発展に貢献しており、また、わが国との相互理解や友好促進にも寄与しています。

海外研修生受入会社(2019年度)

国名	会社名
インド	マルチ・スズキ・インド社
	スズキ・モーター・グジャラート社
	スズキ・モーター・サイクル・インド社
パキスタン	パックスズキモーター社
インドネシア	スズキ・インドモビル・モーター社
フィリピン	スズキフィリピン社
ミャンマー	スズキミャンマーモーター社

- 2019年度の海外研修生の受け入れ人数：85人
- 受け入れを始めた時からの累計人数：23,037人
(1983年度～2019年度まで)

●異文化交流会の実施

各国から受け入れた研修生と社員との交流、異文化理解を目的に年2回異文化交流会を実施しています。浜松周辺の観光施設等を訪れ、各国料理のお弁当やゲームを共に楽しみながら交流を図っています。

- 累計参加者数(2014年～2019年まで)：979人
- 実施回数：12回
- 実施場所：浜名湖ガーデンパーク、日本平、のんほいパーク、駿府匠宿等





スズキの財団活動等

公益財団法人スズキ財団

スズキは、1980年より公益財団法人スズキ財団を通じて、研究者の科学技術研究に対する助成活動を行っています。



スズキ財団
シンボルマーク

理念

今日、自動車産業は、エネルギー、地球温暖化、交通事故などの社会問題が深刻化する中で、省エネルギー、環境負荷低減、予防安全技術、運転自動化など時代の要請に応えるべく、更なる飛躍の時期を迎えようとしています。このような状況の中で、小型自動車産業も国民のニーズに対応すべく、さらに一層の努力を続けていく必要があると考えております。そのためには関連する機械工業等のより一層の高度な発展と、優秀な技術者の確保が何よりも大切です。そこで、機械工業等の技術開発に関する援助・助成と、これらの分野に携わろうと意欲を燃やす若い人々に対する奨励援助を行うため、スズキ財団は、経済産業省ならびに各方面のご指導とご協力により設立され、活動を続けております。(スズキ財団は、1980年にスズキ(株)の創立60周年の記念事業として、関連企業とともに基金を寄託して設立され、2011年4月1日、公益財団法人スズキ財団として新たなスタートを切ることとなりました。)

財団の活動

● 基礎的・独創的研究に対する助成

環境や情報、制御、材料、医療関連などの技術に関する基礎的・独創的研究に対し、社会発展の基礎を築く研究に助成を行います。これまでに全国の大学・高専・研究機関の研究者1,098人に、14億8,296万円(2020年4月1日現在)の研究助成を行い、科学技術の基礎研究発展に貢献しています。

● 課題提案型研究に対する助成

地球環境の保全やエネルギー資源節約、運転自動化等、早急に取り組まなければならない課題に対し、研究者が知恵を集結し解決を目指す研究テーマに助成を行います。2003年度より助成を開始し、これまでに「自動運転車と人間の相互理解に基づく協調型自動運転技術」等の33件の研究に対し、3億1,594万円(2020年4月1日現在)の助成を行っています。

● 研究成果普及助成及び研究者海外研修助成

科学技術分野の基礎的・独創的研究成果の更なる充実・発展を目的として、国内外で行われるシンポジウム・会議等の開催、或は海外で開催されるシンポジウム・会議への出席等にかかる経費の一部を助成しています。これまでに639件、1億8,148万円(2020年4月1日現在)の助成を行っています。



元年度 贈呈式・技術者交流会



● 海外からの研究留学生に対する助成

静岡大学、豊橋技術科学大学とハンガリー、インドの各大学との研究者交流協定に基づき、スズキ財団が1999年度から研究者の留学を支援しています。

2019年度は、インド工科大学ハイデラバード校とハンガリーのブダペスト工科経済大学より静岡大学へ、インド工科大学デリー校より豊橋技術科学大学へ、計4名の研究留学を実施しました。

その結果、これまでにブダペスト工科経済大学から17名、インド工科大学から4名、インド科学大学から1名、計22名の研究者を招聘してきました。

● 海外自動車研修センターへの助成

2016年度よりインドのグジャラート州内に設立された国際自動車センター機構(i-ACE)に対する自動車の設計、製造、サービスに関する研修のための機材・設備を助成しています。

● インターアカデミアへの支援

ヨーロッパの8大学と静岡大学が、国際交流活動を行うために、学生と教職員の研究発表を中心にソーシャルプログラムを用いた国際会議(インターアカデミア)を行っています。スズキ財団はそうした活動にも支援を行っています。

● 総資産、助成件数と助成金額

- ・総資産(2020年3月31日):63億1,712万円
- ・2019年度助成件数:114件(2020年4月1日までの累計:1,793件)
- ・2019年度助成金額:1億7,457万円(2020年4月1日までの累計:21億1,644万円)

公益信託進化学振興木村資生(もとお)基金への支援

病気の原因を解明し健康保持に努めて、楽しく豊かな生活をおくることは、人々の願いでもあります。進化学の研究部門でノーベル賞候補にまでなった、故木村資生博士の研究業績をたたえて、2004年12月、スズキの基金寄附によって「公益信託進化学振興木村資生基金」が設立されました。この基金では、遺伝学分野の研究を行い、大きな研究功績を残された方の顕彰を行っています。

公益財団法人スズキ教育文化財団

スズキは、2000年よりスズキ教育文化財団を通じ、静岡県内にて青少年の健全育成に寄与するための助成活動を行っています。同財団は、スズキ創立80周年記念事業として、スズキグループが基金の全額を寄託して設立した公益法人です。



スズキ教育文化財団
シンボルマーク

財団の活動

● 高校生・大学生への奨学金給付

静岡県内の高校生及び静岡県内の高等学校を卒業した大学生で、向学心がありながら経済的な理由で学業に専念できない方に、返済不要の奨学金を支給しています。2019年度は、高校生83人、大学生17人に総額3,000万円の奨学援助を行いました。

● 静岡文化芸術大学への奨学金補助

社会に貢献できる人材を育成し、浜松地域の発展に寄与することを目的としている「静岡文化芸術大学スズキ奨学基金」が行う奨学事業に対する一部補助を行っています。

2019年度は、150万円の補助を行い、同基金が行う奨学事業を通じて、静岡県内の向学心のある大学生を支援しています。

● 特別支援学校PTAへの物品寄贈

障害のある子どもたちがスポーツや学習活動を通じてあらゆる可能性を広げられるよう、静岡県内の特別支援学校PTAに対し、遊具やスポーツ器具、楽器など児童・生徒が使用する物品を寄贈しています。

事業初年度である2019年度は、24校のPTAへ25品目、総額1,372万円の物品を寄贈しました。

● 日系人学校「ムンド・デ・アレグリア学校」に経営支援

外国籍の子供たちに対する学習支援として、静岡県より学校法人の認可を受けている南米系外国人学校「ムンド・デ・アレグリア学校」（浜松市西区雄踏町、生徒数：幼稚園児から高校生まで265人（ブラジル系251人、ペルー系14人））に資金援助を行っています。

この学校は、日本のバブル期に労働力を補うため来日した多くの日系人労働者の子供たちの学校です。

2019年度は、300万円の資金援助を行い、「母国語と日本語の両言語を習得し、地元で貢献できる人材の育成」を目指す同校を支援しています。

● これまでの助成実績（2020年3月31日現在）

・奨学金給付	423名	(3億3,054万円)
・静岡文化芸術大学奨学金補助	9件	(1,380万円)
・特別支援学校支援	24件	(1,372万円)
・外国人学校支援	10件	(9,750万円)



奨学生認定証授与式



特別支援学校PTAへの寄贈品「ジャングルジム」



ムンド・デ・アレグリア学校の生徒たち